

關西大學圖書館藏書

# 關西大學學報

第百二十九號

昭和十年五月

目次

企業財政標準に就いて……………西村勝太郎……………(一)	空より觀る滿洲と	日本の自然と社會……………大山彦一……………(八)
學 內 報……………(一六)	入學式—五十年式典延期—教職員異動—田川庶務 圖書課主任逝去—學内消息—元講師矢野茂氏逝去—	校 友……………(一八)
大阪支部—朝鮮支部—F.O.S.S.—昭三會—みどり會— 勸解—住所移動—改姓名—	母校創立五十年を迎へて……………(二六)	學 生……………(三三)
關大スポーツ……………(三四)	昭和十年度入學選拔試驗問題……………(三六)	圖書館新着圖書一覽……………(三〇)

Yoiichie

關西大學文學會叢書第一編

關西大學教授 飯田正一編

標註 清少納言枕草子

菊判 二六八頁 定價 一圓七十錢 送料 十四錢

本書は、文部省所定の高等學校高等科教授要目に準據し編纂した國語教科書であつて、巷間もとより王朝文學の萃なる枕草子に關する著作編纂の數は少しとせない。然し往々にして異本ならびにこれに類したるものを瞥見する。それが僅かな語句の相違に過ぎない場合は寛容するとしても、原本と異本との差異が甚だしくて全く形態を異する様な場合は、畢竟する枕草子そのものゝ理解と鑑賞を妨げる、枕草子の特質と價値を正しく闡明する爲には、嚴密な意味に於てこれを原形に還元せしめてでなければならぬ。

本書は周到に異本の考勘を試み再吟味して、北村季吟の「春曙抄」を底本とし、他諸本を參酌校合してなるもの、蓋し枕草子の定本として高等專門諸學校教科用書並に國文學研究の諸士に推奨する。

關西大學文學會叢書第二編

關西大學講師 江馬務 共編  
關西大學講師 安川安太郎

標註 元祿文學新選

菊判 二二二頁 定價 一圓七十錢 送料 十四錢

本書また枕草紙の姉妹教科書として、藤氏王朝の萃を移すに、葵氏元祿の華を以てし、其の採録せしものは元祿時代文學の代表者たる井原西鶴・松尾芭蕉・近松門左衛門の傑作拔萃であり、大學に於ける兩編者、教壇上の體驗に鑑み産みいだせしもの。

本書編纂の主眼とする處は、一般學徒ならびに讀書子をして、元祿文學の概觀を容易にし、同時代の國語を正しく認識せしめ、且つ、その文學思潮の特徵及び元祿文學に現れたる時代人の思想感情を理解・鑑賞・批評せしめる事である。

本書に盛る新味としては、精細に頭註を施し、各篇の終に略傳及び文献を記し、解題を各作品の末に書いた點である。こゝに於てか、元祿時代文學の恰好なる書として敢て江湖の士に薦むる所以である。

大阪市上福島 振替電話  
大阪三九九九番一  
土佐堀二八六番

關西書院 野島書店

大阪市長柄關西大學前 振替電話  
大阪四二六〇番四  
堀二川一七七番

# 企業財政標準に就いて

助教 西村勝太郎

## 一、企業の財政問題

企業の財政問題は企業經營の中樞を爲す重要問題である。従來此種の問題は資本家固有の立場からのみ觀察されて、多數の株主を有する企業に在つても、株主中心の思想を解脱することが出来なかつた。近世産業上最も重要な任務を帯びて居るものは大規模なる株式組織の企業であり、大企業は多數の従業員を包擁し各種の原料と大動力を利用し、數多の大工場を繰業して商品を開内及世界市場に販賣するのみならず、巨額の資本を必要とする。其の資本たるや、資本家のみの獨力を以て到底供給し得ざる程に巨額である。諸金融機關及び各種証券の發達と共に、有ゆる階級の放資家を企業に直接間接に誘引するやうになつて來た。株式に普通株あり優先株あり、社債に担保あり無担保あり、其の他支拂手形、支拂勘定等、其の供給源は多種極めて複雑となるに至つた。於茲、從來の資本家或は主本位の經營觀念に一大修正を必要とするに至つたことも亦當然と言はねばならぬ。實に企業は社會上重要なる經濟的有機體としての實在であり、企業財政に

關する諸問題は經濟的有機體としての企業の立脚地を正當に認識することに依つてのみ解決され得る時代に入つて居る。而して企業の立脚地が正當に認識されるならば、無數の分離せる單位を以つて組織されて居るところの今日の經濟社會に於ても特種經濟の究極目的は人類の經濟的欲望を容易且つ有効に充し得るものであることを要すると共に、之れがため企業に對して若くは企業自ら合理的なる指導統制を益々重要とする傾向に進展することも肯定されねばならぬ。

而して企業は物資の生産及び配給の計畫及び實行の單位であつて、其の計畫の目的が價格上の利益獲得に置かれ、斯る目的達成の爲めの總ての活動が價格的に規定されるのであつて、其の計畫實行の効果が價格的に確定されると同時に、其の實行手段の構造も價格的に構成されて居る。斯くの如き企業に於ける目的達成の爲めの實行手段の構造は二種の價格形態に於て構成され、一は財産價格として、他は資本價格として觀察される。即ち一方に於て企業が目的遂行の手段として所有するところの有形、無形の諸事物は財産價格の形態に於ける構造を形成し、他方に於いて企業が一個の

目的遂行單位として有する價格は資本價格の形態に於ける構造を形成するものである。斯る二種の價格形態は相互に極めて密接なる關係を有するものであつて、兩者の各合計額には常に平均すべき必然的關係が存して居る。

更らに企業は如何なる利益状態にあつても、其の所有財産價格と資本價格とは一致すべきものであつて、斯る二形態價格の平衡關係を明瞭に示したものが、即ち貸借對照表と普通呼ばれて居るものである。故に企業經營に於ける財政的方面を研究しようとする者に、企業の貸借對照表を正當に理解し得る能力が如何に必要であるかは、殆んど説明を要せざる程に明白なものである。貸借對照表は一定時に於ける企業の財政状態と企業の資本状態とを總括的に對立せしめて示す所の表である。而して貸借對照表には自己資本の構成を示すに當つて、一企業年度の純益金を加へられて居る。此の一企業年度の純益金を計算するために作成せらるゝものは企業の損益計算書である。貸借對照表及び損益計算書は何れも企業の財政表と稱せられて居る。而して貸借對照表は企業の財政的構造を示し、損益計算書は企業の財政的活動を示すものである。企業の財政的方面の研究は貸借對照表と損益計算書の兩者を相關聯せしめて考察することが理解を一層明確ならしめる。

## 二、企業の合理的經營と財政表

貸借對照表と稱し、損益計算書と稱するも、何れも過去に於ける企業狀態の記録を示すものである。即ち總ての企業は不斷に活動して居るに拘らず、財政表は歴史的記録に過ぎない。換言すれば企業そのものは動態的 *dynamic* であるが財政表は靜態的 *static* である。

然し財政表が企業の過去に於ける記録たるに過ぎざる故を以て之れを輕視する者は財政表の企業に於ける重要な職能を解せざる者である。若し財政表が正常なる方法に據つて作製せらるゝならば、唯に過去に於ける企業經營の記録たるに止らず、將來に對する最も善き案内者たらしめることが出来る。即ち財政表は企業の歴史であり、統計であるも之れと同時に將來に對する企業の針路を左右する各種の状態をも指示する。之れを要するに大企業の合理的經營は一に財政表に依つてのみ可能であり、財政表の研究に依つて企業經營に必要な基本的材料が供給され企業經營を科學的基礎の上に建設せしめる。

貸借對照表は企業の財政狀態及び資本狀態を、而して損益計算書は企業の營業成績を單に勘定科目と計數を以つて最も簡潔且つ論理的な形式に於て示す所の企業統計である。隨つて財政表は企業財産及び企業資本の構造及び其の企業活動に就いて、相互間に存在する

基本的依存關係を統計的に明瞭ならしめ得るものでなければならぬ。如何に財政表に抽象的美辭麗句を羅列したからとて、其れは依存關係が明瞭でなければ全く無意義である。正當に作製せられたる財政表は、之れを理解し得る人々に對しては企業の構造及び其の活動に就いて最も傑れたる組織的統一的觀念を興ふることが出来る。斯の如く財政表は單に企業の歴史的記録たるに止らず、傑れたる企業統計である。企業經營者は統計としての財政表から企業經營に必要な有益なる實際知識を最も迅速且つ精確に捕捉することが出来る。即ち財政表は企業經營の精巧なる *indicators* 又 *barometers* として作製されねばならない。

更らに財政表が歴史的統計的記録であるといふ事は連續的に數營業年度に亘つて比較對照されて研究されるならば一層有益である。

貸借對照表が特定經濟單位の特定時に於ける財政狀態を靜態的に示すものなる事は既に説明したところである。而して二枚の貸借對照表の資本金勘定を比較する事に依りて、特定財政狀態から出發したる經濟單位の活動の結果が次の財政狀態に及ぼしたる變化を知る事を得る。即ち前期と後期の貸借對照表上の資本金を比較する事に依りて當期間に於ける營業の結果が利益を得たるや將又損失に終りたるやを知る事を得るに至る。若し前期に於ける資本金よりも當期の資本金が大なる時は當期間於て増資又は減資の事實存在せざれば

當期間の營業の結果は利益を得たる事を示し、其の反對なる時は損失を蒙りたる事を示すのである。斯る利益を得又は損失となりたる經濟活動の動態的説明は損益計算書に於いて爲さるゝものなるも、斯る結果を得たる後の財政狀態と其の出發時期に於ける財政狀態との各勘定科目毎に比較する事に依つて如何なる科目に於ける幾莫かの變化が綜合されて結局に於て損失又は利益を示したるかを知る事を得る。即ち兩期日に於ける貸借對照表の資産の各科目及び負債の各科目に及ぼせる變化を計上する事に依りて利益又は損失が説明され得るのである。即ち資産科目の比較が資産の増減を示し資産の増加は利益を増し、損失を減ずる結果となる。又負債科目の比較が負債の増減を示し負債の増加は利益を減じ損失を増す結果となる。

然しながら一營業年度の財政表と雖も、之れを分解する者には頗る有用にして重要な知識を供給し得ること勿論なるが短期間の記録を基礎として抽出された結果は往々にして誤つた判斷に導く危険がある。於茲、連續的に數營業年度の財政表を比較研究することに依つて、一層精確なる知識が與へられる故に企業經營の研究に際しては比較財政表が絕對的に必要であると言はなければならぬ。或一定時に於ける財政表が企業の最早寫眞であるならば財政表の連續たる比較財政表は企業の活動寫眞であると言ふことが出来る。財政表の比較研究に依つて明白となれる企業の傾向は隣

同時に於ける單なる記録の羅列以上に重大なる意義を有し、財政表の比較研究に依つて企業發展に關する従来の傾向を觀取し得ると共に、曠て將來に對する進路を照す所の光明を求むることが出来る。

### 三、財政表の研究の發達

財政表を資料とする研究の最も旺んなる米國である。鐵道業に關しては Interstate Commerce Commission、瓦斯、水道、電燈、電車條の公益業に關しては各州に依つて任命されたる Public Service Commission に依つて規定されたる統一的規則及び會計方法に準據して財政表を作製することになつてから此種企業に關する共通の經營標準が著しく明瞭になつて來た。工業的企業に關しては其の業態が多様多様であるために統一的制度の採用は甚だ困難であるが、石炭鑛業及び銅鑛業に於ては歐洲大戰に際して石炭及び銅の價格を管理する必要に迫られ Federal Trade Commission が大統領の命を受けて、是等企業の生産費を調査するに當り報告様式を劃一的ならしめて銅及び石炭の生産費に關する興味ある統計が發表されるに至つた。其後に於いて此種の企業は所得税申告に關する問題とも關聯して會計制度及び報告様式が殆んど一定されて居る。又 Harvard Bureau of Business Research は全米國に亘つて多數の小賣商業及び卸賣商業に就いて財政的統計を作製してゐる。更らに國勢調査及び稅務局の年々發表する統計

も亦有用なものであつて、猶各種同業組合及び銀行調査部の發表する財政統計も頗る有益なる參考資料である。斯くの如くして米國に在つては財政表を蒐集して是れを編纂し、需要者に配布することを營業とする機關も非常に發達して居る。例へば Standard statistic Corporation 及び Poor's Publishing Co. の如きは其の最も代表的のものである。獨逸に在つては政府及び同業組合に於て調査され研究される事が最も發達して居る。

財政表の研究に依つて、果して公式的な財政標準が確定せらるに至つたか否かは未だ疑はしいにしても、茲に企業經營に當つて嚴守するべき經營比率に或一定の限界が存在し、而して是等の限界は暗然裡に健全なる企業に依つて承認されて居ることは展開されて居る。然しながら一方に確乎たる一定の標準が未だ多くの企業に於いて採用されて居ないと言ふ事實を以つて直ちに此種研究に何等の價値なしとして排斥することは大なる誤解である。財政表の研究に依つて企業の鞏固を維持せしめ、最大の經營能率を發揮せしむるの關鍵たらしむることが出来るであらう。故に此種の研究が最も旺んなる米國に於ては、更らに一層多くの精細なる研究に依つて近き將來に經營事情が一變するに至るであらうと推察される。

### 四、企業の特異性並に財政標準

如何なる企業家と雖も同一種類の企業に従事せる他會社の財政状態を多少とも了解せなければ、企業財政を賢明に處理することは出来ない。假令立派に經營されて居ても、其の状態及び活動を單に内部の問題としての研究に局限するよりも競争企業の状態及び活動と比較することに依つて、多大の便益を得る場合が尠くない。殊に現今の如く競争を基調とする經濟社會に在つては、總ての企業は他の同種企業と全然別個な生存様式を維持することは殆んどあり得べからざることである。同種企業の財政表を比較研究することに依つて各種企業に於ける特異性を明瞭ならしめることが出来る。同種企業としての特異性が明瞭になるといふことは、曠て其等の企業全聯としての共通の意思を捕捉せしめるに便宜であると共に同種企業として國民經濟に對する關係、或は企業經營政策を如何にすべきか等の問題解決に具體的材料を提供するに至るものである。而して種類を異する企業は多くの點に於て異なる生存基礎の上に立脚して居る。即ち物品販賣企業と製造企業、或は是等と鑛山業、公益業、銀行業とは異なる經濟的構造を有する。又如何に同種類の企業に在つても自然的及び人爲的條件の相違に依つて經濟組織を異なる事がある。斯くの如く全ての企業は生存の諸條件を異にし、殊に企業の種類に依つて特異性を有すると言ふことは、或特殊の企業に適當なる經濟原則を他の企業に適用することの不當なる所以を證するものであ

る。然しながら一般的には企業經營の出發に際しても或は經營中途に於ても同種企業に於ける特異性を十分に認識して、經營の其の標準に適合せしむるに非ざれば、遂に競争標準線から没落するに至ることも常に目撃して居る事實である。於茲、企業經營は實に競争標準を如何にして維持し得べきかの問題であるとも稱することが出来る。

斯くして同種企業の全てに共通する一般標準があるとして、更に此種の研究が全てに於ける企業に共通すべき普遍妥當の標準を確立し得るに至るかの問題は未だ解決されて居ない未知數であるが、而して流動比率に關する問題の如きは或種類の企業に對してのみならず、他の種類の企業にも適用されるべき可能性を多量に持つて居る。研究が漸次具體化される従つて、更に多數の統一の原理を抽出し得る時機に到達するものと想像される。

今や財政表は單に之れを以つて取引の結果を表示するに過ぎずと爲したる從來の人々が、到底想像も及ばざる程の重要性を持つやうになつて來た。財政表は正に企業經營に關する最も本質的な基本である。企業組織が擴大するに隸屬して、企業指導者が企業經營方針を決定し、或は業務を處理するために財政的統計に依頼することが益々重要となるべき傾向を持つて居る。小規模企業に在つては、企業經營者自ら業務の内容に接觸することに依つて、監督が最も有効に行はれ得るが

大規模企業に在つては、此種の方法を採用することは事實上不可能である。今や大企業の指導者は財政的統計に頼つて經營能率を知るより外に途が無くなつた。

更に財政表はたゞに企業經營者に必要缺くべからざるものであるのみならず、企業に資本を媒介又は供給する所の放資銀行、商業銀行、放資者並に取引先等に對しても、企業に關する具關的知識を與ふるに極めて重要なものである。米國に在つては放資銀行が社債又は株式の發行を引受くに當つては財政表を中心として多數の財政事項を徹底的に調査し、之れが爲め相當多額の費用を要するとも満足し得べき結果が得らるゝまでは決して引受けざる状態である。又普通の商業銀行に於ても信用調査部を置いて、財政表を基本として得意先の信用状態を調査し、流動資産と流動負債との關係が適當なる割合を保持しなければ貸出に應ぜざることとなつて居る。而して大銀行は一定の様式を定めて各得意先に財政事項を記入せしめる事にして居る。財政表の統一の觀察は企業の内部的及び外部的利害關係に直接必要にして且つ有効なるのみならず、財政表を基礎とせる經營經濟的研究は國民經濟的にも重要視されるべきものである。法人所得稅の決定が正當に作製されたる財政表に基礎を置くべきは勿論のこと、公定價格の基礎が妥當なる原價計算を出發點とする等のことに依つても推測し得らるゝであらう。

## 五、財政表の要件及び其の具備すべき性能

企業の作出する財政表が企業經營上に於いて企業の歴史的記録であるのみならず企業財産及び資本の有機構造並に其の營業活動に就いて、相互の間に存在する基本的依存關係を統計的に明瞭ならしめ得るものになければならぬと言ふ事は財政表の作製に當つて種々なる要件の具備を必要とせしめる。

(一) 財政表は企業經營の機能を表示し得るものである事を要す。

概して企業經營には商事的、生産的及び金融的三大機能が存する。販賣高、販賣商品原價、賣上費及び商品益金の統計は商事的機能の管理能率を、生産費並に諸經費統計は生産的機能の管理能率を、而して貸借對照表及び損益計算書は前記諸統計と相俟つて、企業の總括的及び財政的管理能率を表示するものである。

従つて貸借對照表に就いては、或資産と或負債とを相殺するが如きことは、絶対に避けられねばならぬと共に各種の資産及び負債は數多の勘定科目を其の性質に従つて論理的に排列し、更に之れを幾つかの集團となし、各集團の合計を示すやうに記載されることを要する。又損益計算書に就いては利益の計算に當つて、

(一) 商品益金	Gross profit
(11) 營業益金	Operating profit
(12) 純益金	Net profit

の三者を精確に區別して明瞭に記載しなければならぬ。利益金を三階段に區別して觀察することは經營能率を測定する上に於いて非常に必要である。商品益金は純販賣金額と販賣商品原價との開きであつて、企業は商品益金から諸經費を支拂ひ、次いで借入資本及び自己資本に對する報酬を支拂ひなければならぬ。營業益金は商品益金から營業上の諸經費を控除したる殘額であつて、全企業資本に對して營業が獲得したる純收入を表示する。而して純益金は營業益金から利益、所得税、特別損失金等を差引いて株主資本に對する報酬及び企業の社内保留金として最後まで残るべきものである。

總 販 賣 高……………	¥ 100,000.00
控除、運賃、割引、 採録料、戻品等……………	¥ 10,000.00
純 販 賣 高……………	¥ 90,000.00
前 期 繰 越 商 品……………	¥ 10,000.00
純 購 賣 高……………	¥ 60,000.00
計……………	¥ 70,000.00

控除、前次製品……………	¥ 50,000.00
販 賣 商 品 原 價……………	¥ 65,000.00
商 品 益 金……………	¥ 25,000.00

製造企業に於ては販賣高と工場原價との差額が商品益金である。

次に營業益金の計算に當つては商品益金から販賣費、總係費、減價償却金等を控除して算出する。而して營業と直接の關係を有せざるものは營業益金から區別され、即ち財政的費用たる利息、割引料、手数料等は營業益金が決定されたる後に控除される。

營業高が貨幣的大さのみでなく、具體的數量單位で測り得る場合には其の數量統計を附記することは極めて必要である。若しも具體的數量單位で測り得ざる場合に於ても指數に依つて同一標準に換算されたる金額統計を掲げることが當を得たる策と私考する。

(二) 財政表は企業の特質を表示し得るものでなければならぬ。

財政表は企業指導者に必要なる知識を供給する重要な職分を有するものとすれば、財政表は企業の業態に適應したるものでなければならぬ。即ち企業の會計制度は企業の業態に適應したるものであり、且つ必要なる財政的統計を精確迅速に表示しなければならぬ。企業の會計制度を設定するに當つては、其の立案の目

的或は着眼點は企業指導者に企業の状態を了解し易からしめ、且つ指導上に利用し得べき有用なる知識供給と云ふ事になる。而して其の會計的及び統計的知識の供給は企業經營上に總括的責任を負ふ總括指導者に對してのみならず、企業の各部分に就いて責任を負ふ部分的指導者に對しても、夫々適當に有効なるものたることを要する。即ち企業經營上に責任を有する各員に夫々有用なる知識を供給することを目的とすべきものである。會計が斯くの如き重大なる任務を能く遂行する爲めには會計制度の仕組及び統計が企業の營業及び組織に十分適合したるものたることを要するは言を俵たない。

企業は其の種類に依つて特殊性を有し、營業を異にするから會計は企業の種類に依つて特殊化 Specialization されることを必要とする。此處に於いて財政表が精確迅速且つ明瞭有効に作製される爲めには會計及び統計の制度が企業の種類に従つて單純化 Simplification される必要がある。企業の種類に依つて、會計制度、原價計算及び統計の標準化 Standardization は最も好ましいことであり、米國に在つては多くの企業に現に採用されて居り、米國企業の日進月歩は會計の標準化に負ふ所尠からずとへ唱へられて居る。鐵道及び公益業に於て最も夙く發達し、今日では銅鐵業及び石炭業

に、延いては各種製造工業に於いても同業組合の熱心なる提唱に依つて漸次普及されむとして居る。然しながら會計制度の標準化は必ずしも各企業に固有なる特質を全然無視してまで標準化を爲さむとするものではなく、又各種企業に共通なる特質を全然無視してまで標準化を爲さむとするものでもない。唯各企業に共通なる特質を限界として標準化せむとするものである。

同種類の企業に依つても管理上の責任に關する制度を異にし、又生産及び販賣方法を異にせざるを得ない場合がある。故に會計及び統計制度の組織に當つては是等の相違を全く無視して標準化することは決して妥當とは言はれない。要するに會計の目的とする所は經營上の各責任者に指導上必要なる知識を供給するにあるから標準化は企業中心の立脚地から定めらるべきものである。盛んに標準化を鼓吹する米國に在つても標準化の限度といふことは一般に認められて居る。

財政表は企業の基本的依存關係を總體として表示するに止まるも、會計制度は其れを部分的にも表示し得るやうに組織立てられてあることを必要とする。即ち各部の會計が常に總體としての殘品回轉が緩慢である場合に、企業の如何なる部に、如何なる商品に、如何なる項目に其の原因が存在するかを明にし得るものであることを要する。但し其の限界は常に經營上有効に

使用され得る程度を超えてはならぬ。

次に財政表は是れを利用する目的如何に依りて其の具備すべき性能にも多少本末輕重の差が存するも次に示す諸要件は財政表に缺くべからざるものである。

#### 一、明瞭性を有すること

財政表は企業の財政狀態を兵表せるものなれば、其の内容は唯に學者、計理士等の如き専門の知識を有するもののみならず、該企業に利害關係を有するもの、特に株主一般が容易に理解し得るが如く最も明確なるを要す。是れ獨逸學者が財政表の明瞭性の原則として唱ふる要件である。

#### 二、眞實性に富めること

財政表は財政狀態の眞相を發表せるものたる事を要す。而して此の目的を達せんが爲めには單に凡べての資産、負債を悉く網羅するを以つて完全とせず、尙ほ其の評価が眞實なるを必要とす。然るに眞實なる評價とは何ぞやの問題に關しては學說二派が存在する。一を絶対的眞實主義と稱し他を相對的眞實主義と稱ふ。前者は財政表に附する價格は客觀的交換價格なるを要すと主張する説にして、後者は是に反して財政表に用ふる評價は必ずしも客觀的交換價格たるを要せず、唯合法的のもの即ち法律の規定、商慣習並びに會計學の認むる主義に合致さへすれば可なりとする説である。

然しながら清算貸借對照表の如きにありては凡べての財産に換價格を記載する必要あるは勿論所謂營業を繼續する企業 *Going Concern* に於ては斯かる評價法を採用するを要せずとは一般に唱へらるゝ所である。

要するにふ政表眞實性の原則に對する學說は主として固定資産の評価論に關する議論であつて評價の標準如何に依りて其の内容に著しき差異を生ずるを免れない。Dicekが「貸借對照表は事實の表示にあらずして寧ろ意見の發表に過ぎず」と唱へたるも畢竟此の意を表はしたるものである。

#### 三、繼續性を帶べること

累年の財政表を比較研究する事は財政狀態の變遷消長を知る上に極めて緊要なる手段とす。此の目的を達せんが爲めには財政表に用ふる勘定の分類配列法並びに財政の評価主義等々同一の標準を維持するを要す。是れを財政表繼續性の原則と稱せらる。近時帳簿組織の設定と同時に勘定科目分類表作成の必要を力説するもの漸く多きに至つた傾向は此の性能を維持するに最も有力なる一手段である。

## 六、結 論

以上に述べたるが如く財政表が企業の機能及び特質を表示して、企業指導者に對して必要にして且つ有用



記なる知識を供給するものとすれば、財政表は會計的録として記載すべき一切の企業事項を包含し、而して其の價值及び名稱の眞正なるものであり、且つ明瞭に記載されてあらねばならぬ。其れから統一的方法を一度採用するならば狭りに變更することは許されない。何となれば財政表は定期的價值を有するのみならず、繼續的價值を有するものたる事を要するからである。財政表は之れを比較對照することに依つて企業活動の跡を明瞭に諒解せしめ得るものであり、企業財産及び企業資本の内容構成上に起つた變化を最も簡潔且つ論理的な形式に於て解説する所の財政史である。

然し是等の要件を完全に滿し得る財政表は極めて稀である。財政表に於ける統一性の缺如は、其の外形式 Form に於ても、内容 substance に於ても存在する。殊に企業經營上に財政表を重要視すること尠き我國に於て然りとす。此等の不統一は企業の種類に依る特殊性を基礎として、企業中心の立場から最も合理的に解決されねばならない。

財政表の外形的不統一は意見の相違に基くこともあるが企業の種類に依つて異なるのは當然である。而して同種類の企業に在つても、規模の大小、獨特の經營法、附隨業の有無等に依つて多少異なる。更らに内容上に於ける不統一の内で企業財産の評価が區々であることは財政表を對照とする研究者に取つて致命的打撃である。而して財政評價に關する統一的原則は理論上にある。未だ確立されて居ないと言つて差支ない。貸

借對照表をして企業財産の眞正なる表示たらしむる爲めには財産評價が正當なるものであることを要すると共に精確なる損益計算表も正當なる財産評價を基礎とするに非ざれば作製され得ない。隨つて財政表を基礎とする知識が精確なるためには計算表示の様式及び財産の評価が企業の種類に依つて、或限度まで統一化されねばならぬ。假令現在に於ては信頼し得べき統一基礎の上に作製されて居ないにしても、人間不斷の努力は結局に於て何等かの合理的標準を確定するの時期に到達するであらう。而して其れは企業自體の立場からのみ決定されるべき可能性を有する。

隨つて茲に稱ふる所の財政標準なるものも其の精確さの程度に於いて未だ尠からざる制限を蒙つて居るものである事を免れ得ない。斯くの如き不純なる材料を基礎として算出されたる平均數は全然當にはならないものであり、標準とする價值なきものとせられる恐れがある。然し財政表から現はれたる標準を以つて、直ちに確定不變の標準とするものでなくたり企業經營上に必要なる判断を下すに當り、其の判断を決定するに重要な資料として判断の不精確を補足し出来るだけ判断を行ふに具體的基礎を與へむとするに在る。此の意味に於いて此種の研究は所要目的の幾分かを果しつつあり、更らに將來に於いて一層の進化發展を遂ぐるに至るであらうと想像される。財政表を資料とする一般的研究には、斯る不便都合があるとしても、少くとも是れを或企業に限つて特殊の注意を用ひて爲されるならば非常に實益のあるものが得らるゝであらう。

(第二六頁入學試驗問題イイイ)

② Before you give advice, that is to say advice which you have not been asked to give, it is well to put to yourself two questions - namely, what is your motive for giving it, and what is it likely to be worth? If these questions were always asked, and honestly answered, there would be less advice given.

英文和譯 (英語科)

Parents are not the only educators of their offspring, but must share the work with other and numerous agents. And in this we rejoice: for, were the young limited to domestic influences, each generation would be a copy of the preceding, and the progress of society would cease.

和文英譯 (英語科)

先日お訪ね致しました時は、大變御肌使のやうにお見受け申しましたが、此頃は御病氣で、學校もお休みのことになりまして、驚きました。

國語 (國語漢文科)

① 笠原殿には大和河内伊賀伊勢などより兵ども参りつどぶ中に事のはじめより頼み思されたりし稱木兵衛正成といふものあり心たけくすくよかなるものにて河内國におのかたのあたしをいかめしうしたためてこのおはします所も危からむをりは行幸をもたしきこえなむなど用意しけり

② いくそたびかきにごしても澄みかへる水や御國の姿なるらむ

漢文 (國語漢文科)

今日記一事、明日記一事、久則自然貫穿、今日辨一理、明日辨一理、久則自然浹洽、今日行一難事、明日行一難事、久則自然堅固、漢然水滸怡然理順、久自得之、非偶然也。

以上返り點、送りガナ、解釋。

作文

(法、經、商) 我が郷土の誇  
(英) 外國語學習についての態度

空より観る

## 滿洲と日本の自然と社會

教授 大山彦一

朝みどり澄みわたりたる大空の

ひろきをおのが心ともがな

明治天皇のこの御製こそ私にとつては思出もなつかしき愛誦の句の一つだ。餘りにも人間的な煩惱の世界に沈溺する現代人にとつては、時としてかの大空の澄み渡りたるに想を馳せ、閑雲を友とするしばしの解脱を味ふのである。

喜びにも悲しみにも大空は私の友である。

病のごと思郷のこゝろ湧く日なり

目にあをぞらの煙かなしも

ふと私は少年時代の愛誦の啄木の歌を思ひ出す。疲れたる眼を遠く青雲のはてに投ぐるとき、かすかにも響いてくるプロペラの響！

○ 昨夏、私は偶然の機會から、滿洲の空を、ハルビンからチチハルへ、往復した。空から觀たる滿洲の自然

と社會をスケッチしたい。(日記帳の中より)

(八月三日)

ハルビン郊外飛行場。離陸準備。プロペラの廻轉。

走り出す！ 廻轉する車輪！ 薙ぎ伏す草、草、草。廻轉する車輪は、つと瞬間的な動搖！ 浮き上る！ 一尺二尺、三尺……車輪は宙に空廻りしてゐる。流れる草、草、草の原。飛行場の上空……一周。地上の人達が帽子を、ハンカチを振つてゐる。一唸りプロペラは調子を高める。機首は北西方！ 早やハルビン市街の上空だ。赤煉瓦の四角な箱、積木細工、……家、家。舊教會の圓天井。太陽島の上だ。ロシア人の別荘地、ロシア人の夏の歡樂境。いつも音楽が響いてゐた西歐の匂の充滿してゐた島だ。それがどうだ！ 水浸り！ 赤い屋根、青い屋根が水の中からのぞいてゐる。

松花江の大汎濫。畑の大豆を、粟を、高粱を没してゐる。處々に畑地が水の中から頭を露出してゐる。はるか彼方濁水滔々堤防を没して水は廣がる昨夏は南九州

は大變な干害であつたが、水は北滿の地にありあまるほど落ちたらしい。汽車、電信、電話の不通は勿論だ。たゞ飛行機は悠々としてその上を飛翔する。

耳を聳する爆音。下をみる。緑の草原が、畑地が流れてゆく。うすき緑に、濃き緑に、凡そ、出し得る緑の濃淡の繪具をもつて、此はてしなき大平原のカンザアスに美しき縮模様を畫いてゐる。其緑の畫布の上に影一つ！ 隼はやぶさの如くすばらしい迅さで走る影！ 單純な強い線で隈どる影！ 飛行機の影だ！ 車輪にひつかかつた飛行場の草がふるえてゐる。……

ハルビンの野はうすみどり濃きみどり

影疾く投げて飛行機飛べり

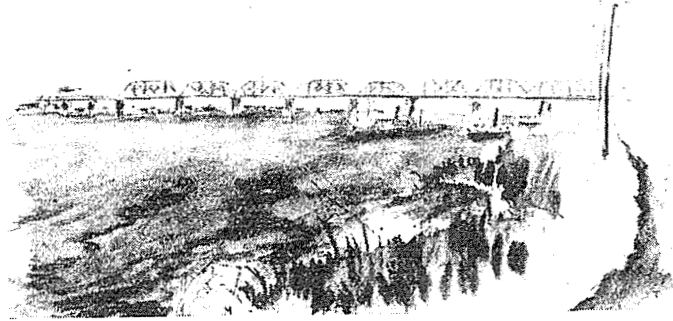
「ハルビンの野は」といふより、「滿洲の野は」といつた方が感じが出るかもしれない。見渡せば四顧坦々たる大平原。はるか陸と天、鬚髯青一髪を畫くところ、青雲のたゞすまゐるは、正に大海原である。汽車の上から觀ればゆるやかな大波狀を畫く大地も上から見下しては全くの水平面だ。滿洲にあつては、北東、吉林に至つて漸く山紫水明の山容を觀る。北西の大興安嶺も遠く視野の彼方に没してゐる。飛行機は此坦々たる陸の大海の原上を快走する。氣流の良さ。殆んど動搖しない。プロペラの響だけ。……

左手に北滿鐵道が一直線に走つてゐる。ところどころに滿洲部落を觀る。ことごとく土壁―城壁―をめぐらしてゐる。其中の一軒一軒の家が又ことごとく土壁

をめぐらしてゐる。即ち各戸各家が一單位で各自で自衛手段を講じてゐるのだ。おやぢさんや若者が、鐵砲をもつて土壁のまはりを夜番する。此各戸各家の單位が綜合されて「鄉村」の自衛單位を構成する。共同の城壁が設けられる。各郷各村で共同防壁を構築するのだ。『鄉村自治體』の意味と構成とは此構造を觀ることによつてよく理解される。此處に支配する社會倫理は「修身齊家」なのだ。そして彼等は此意味を「一身一家の安全幸福をはかること」と解する、即ち「安居樂業」である。天下の政を誰がとらうとお構ひなし、此「安居樂業」感を脅さへしなれば結構だ。外部の交渉との可及的遮斷。社會的共同な施設は容易に生れない。すべて公共的なものはきたない。\* 皆が一致する共同なこと、其は外敵の防禦だ。共同土壁の構築。(滿洲社會の構成が *Geell' scharitch* とは此點のみを強調す。)

ところで外敵とは！ 職業的な馬賊。此は農産物の出廻りに、高粱の繁茂期に跳梁跋扈する。農家が一年の膏血を以て積んだ收穫を狙つて、不意に民家を襲ひ時には人質をとつてゆく、度すべからざる豪傑共だ。文明社會にもかういふ鐵面皮な假面の「豪傑」はゐるが。兎も角かういふ「外敵」を防衛するのが土壁や城壁を擁する鄉村自衛團の任務だ。どうしても「自衛」しきれぬ強敵には年貢を納めて契約する。此強敵親分は、此度は鄉村自衛を契約期間中他の「外敵」に對し

て防衛してくれるといふわけだ。親分の繩張が出来。此馬賊の大親分の一人即ち張作霖であつた。滿洲では馬賊になることが「雄圖」を有する青少年の「青雲の志」である。滿洲では、従來「治國平天下」を論



(筆 長 敦 出 大) 描 素 の 江 北 松 ン ビ ル ハ

じ得る者、若しくは論ぜんとせば馬賊になるより外に途がなかつたのだから。其處に何等の登龍門は組織的にひらかれてゐなかつたのだらう。私の高等學校時代の知人で北支から來てゐた留學生も其昔此種の「雄

圖」について語つてゐた。

然るに、此鄉村の「自衛」團は時に積極的に動き出して旅人を脅迫したり、他鄉村人に武威を發揮しはじめ。彼等自身が時に變じて「外敵」匪賊化する。匪賊が出た！といふので日本軍が追撃したら、村全體が「匪賊」であつたといふ例が少くない。

かういふ種の「匪賊」には大刀會といはれる農民の秘密結社である場合が少くない。此大刀會といふのは自衛農民團たる紅槍會の後に生れた紅槍會の分流であつて、山東に起つたものであつて、宗教團體ではなく農民の武装自衛團である。「國家」組織による生命財産の防衛を受けなかつた農民自身が、横行する馬賊土匪に對して自家防衛のために組織した自衛團體である。時に官憲の暴政に反抗し不正官吏を膺懲することあり、更に排外的民族運動にまで發展するようになつた。敬天が彼等の宗教で天神を祀り「彈丸身に中らず刀槍身に入らず」てふ神法を信じ、呪文を唱へ護符を呑んで戰鬥に臨む勇取さをもつてゐる。會員は農民であつて事なきときは家にて農を營んでゐるが事があるとい村一郷こそつて槍・刀・銃をもつて出かけるのである。鐵道を襲撃したり、都市を襲つたりするのは此種の大刀會員が中心にあつてリードしてゐるので、此は一種の排外的民族運動のあらはれである。しかし流石の彼等も日本軍の威力の前には潜伏してゐるが、際をみては蜂起する。日本軍が來た、と知ると隊を解い

て百姓をしており、日本軍が去ると、又集團をつくり  
武術を練り、隊を整へて、油断をみて都市や列車を襲  
撃するのである。

農民だけでなく滿洲、支那の社會の底層を中心に一  
大秘密組織がある。即、在家裡である。在家裡は山東  
から以南は青帮とよんでゐる。青帮は上海を中心に支  
那全土に其共同組織網を張つており、支那の二分の一  
は在家裡(青帮)に加入してゐるとのことである。今日  
滿洲では約百萬乃至二百萬の帮員を有する秘密結社の  
組織であつて緊密な所謂ゲマインシャットの結合をな  
してゐる團體である。

支那(或ひは舊滿洲)に於て事を成さむとすれば、  
此秘密結社、青帮の力をからねば何事もなし得ない。  
袁世凱は其息子を上海におくり、上海の青帮に加入せ  
しめ、又孫文は此種秘密結社(哥老會)の會員となり其首  
領鄭士良と結び、一八九二年哥老會員をもつて興中會  
を組織し、滿洲王朝覆滅共和民主國設立の革命運動を  
おこしたのである。後に一九〇四年興中會は改組せら  
れて國民黨となつた。蒋介石が此後を承けて革命運動  
の達成に努力したのであるが、此全過程を通じて孫文  
はつねに地方的武装結社を哥老會員によつて動かし、  
又上海を中心とする青帮を操縦してゐたが、蒋介石は  
更に積極的に此青帮の力を利用したのである。即ち蔣  
介石自ら此青帮に加盟したのである。一九二七年對共  
産黨の上海クーデターは蒋介石の軍隊に非らずして青

帮の武装團たる共進會であつて、共進會によつて工人  
の左傾團を彈壓して統一委員會を組織した。彼が現在  
有してゐる秘密結社の最大有力なるものは此青帮で  
ある。此等の青帮は別働隊をつくつて蒋介石を支持し  
てゐる。即ち藍衣社の如きが其である。

兎も角も、是等の秘密結社は山東河南を中心として  
滿洲の方面へ跋扈しており、滿洲事變後は敗走兵や馬  
賊が此在家裡や大刀會と一緒に抗日的暴行運動  
を行つたのである。滿洲統治の上に於て此等の秘密結  
社の動向は看過すべからざるものであるが故に、私は  
此在家裡の輪廓を畫いておきたい。

在家裡は表面宗教團體かの如くみゆれど、實は然ら  
ず、社會は相互扶助の共同團體であつて、義氣・任俠  
博愛・師徒の社會律をもつて結合されたゲマインシャ  
ットである。師徒は、師傅・徒弟であつて所謂親分乾  
分であつて、同參とは所謂兄弟分である。かゝる組織  
は我國徳川時代に通有的であつたことは人も知る如く  
である。殊にかの友子同盟の如きは然りである。

在家裡は青帮と同一物である労働階級を中心とする  
防衛共濟團體であるが、紅帮は之と異りギヤング的性  
質を帯びたものであるから區別しなければならぬ。帮  
員は慈善慈悲を本旨として儒教佛敎道教の本義を繼承  
して孝悌忠信禮儀廉恥を重んずる。大連、營口、撫順  
奉天、本溪湖、安東、新京、吉林、哈爾濱等の河川港  
埠頭に最も勢力を有してゐる。滿洲の労働者の大部分

をしむるは苦力であるが(苦力に就ては曾て放逐した  
こともあるので省略する。苦力の中には苦力帮、工場  
には工場帮あり、すべて労働者仲間にはギルド的組織  
たる帮口制がある。帮は帮頭によつて統制統率される  
ので苦力頭が在家裡の師傅である場合は其帮は全部在  
家裡である。

在家裡(青帮)は、康熙十二、三年頃(一六七三年)  
今から二百五十七、八年前頃覆清興明を圖つた吳三  
桂、耿靖忠等が組織した哥老會なる秘密結社の流れを  
汲むものであつて、其始祖を羅祖と稱してゐる。羅祖  
は羅愛泉といはれてゐるが實在不詳である。實際に組  
織したのは、翁、錢、潘なる三人物が雍正四年、一七  
二六年揚州より天津に通ずる運河に依つて北京地方へ  
糧米を輸送したとき船夫労働者の間に、流域の土匪馬  
賊に對する防衛のために組織したのが其濫觴である。  
清朝覆滅的性質を帯びてゐたので清朝からカムフラ  
ージュするために安清帮といつてゐたが、清朝倒れて「  
安」と「シ」を去つて青帮(在家裡)と改稱するに至  
つた。

在家裡の第一祖は達磨、それから降つて陸祖、羅祖、  
翁祖、錢祖、潘祖……此等の老祖が十九祖ある。普通  
儀式のときには十三祖を祀る。其身分階級は大家族制  
度である。階級と呼ぶよりも身分階層、之を「輩」と  
よび、第一代即ち第一輩子は翁・錢・潘で第二輩子以  
下今日は四十輩子に至つてゐる。今日は生存してゐ一

番古いのが十九輩子、一番新しいのが二十七輩である。入團式は非常に嚴格莊嚴に執行される。親分・子分が一心同體となる、即ち「師徒は父子の如く、同參は手足の如し」となる式なのである。此式がすむと帮員となる。しかし秘密結社なので異なる親分を持つはお互が帮員であることを知る方法が必要である。暗號の使用だ。

右手の手指と無名指をまげて三指を使用し、左手は拇指をまげて四指を使用する。右手三本指は翁・錢・瀟の三相祖を、左手四指は朱・劉・黃・石の四相祖を表象する。此所作を「擧手不離三」と呼ぶ。又、酒茶を飲む前に三滴を卓上に落す。之三相祖に供ふるの意である。荷物又は紐を結ぶのに、眞結びにしないで、一つ結びとする。帽子を伏せて置かず、必ず仰向きに置く。之等の所作によつてお互が帮員であることを知ると、例へば、帮員たる車夫は未知の帮員たる乗客の車代を受取らない。

親分子分及帮員相互の結合の強さは肉親兄弟以上である。帮員と帮員ならざる親とが喧嘩鬭争する場合子が帮員であつた場合は、親を助けずに帮員を助けねばならない。職業上の結合の強さは遂に血縁的結合を止揚せるものである。

親分子分の師徒の義理は「義氣千秋」であつて、まづ徒弟の徳義として三節兩壽の禮がある。三節とは正月、五月の端午、八月の仲秋節、兩壽には乾分は如何に貧乏してゐても祝物を贈り師前に三拜九拜の禮をなす。師徒は父子の如く、同參は手足の如し」で、親分は乾分の生活を保證し、一切庇護の任務をつくす。就職の世話、病氣の養生をはじめ、警察から追はれるような場合は金品を與へて逃がす、其落付く先まで世話する。世話を頼まれた行先の親分では極力之を庇護し面倒をみる。帮員同志は密告の義務がある。互ひに危険を知らせ合ふのである。

滿洲國政府の要人の中にもこの青帮員がある。即ち青帮全般に「内通」してゐるのは當然である。此處に慎重な考慮が廻らされねばならぬのである。かゝる青帮の大親分では、清朝の末に馬德芳といふ者あり、日に三斛の米を炊いて帮員の食客を養つてゐた。今日上海では、張肅林、杜月笙、李徹五等あり平生いつも數名の食客を養つてゐる。上海は、また此種の青帮員によつて事實上の秩序と治安を保つてゐるのである。

兎も角、滿洲に於ける青帮、在家裡こそ滿洲統治の上には閑却すべからざる存在である。滿洲内には此外に宗教團體として、道院、紅十字會なるものが存在する。兩者同一物であつて、滿洲支那を通じて唯一の宗教的慈善團體とみられてゐる。道院が其主體で、紅十字會は其社會的活動機關である。山東省濟南に其本部を置いてゐるが、全然政治的色彩は無い。教旨は至聖先天老祖を祀る。先天老祖といふのは五教の神祖であつて、即ち佛教、耶蘇教、回教、道教、大本教の神祖を本尊とするもので、此五教の眞諦を味得し、大道を闡明するを宗旨とする。日本の大本教に人類愛善會と提携協和してゐるところは注目を要すべく、國境及民族を超越せる宗教的慈善團體である。滿洲では地方の要人富豪智識階級は殆んど全部之に關係してゐるとみられてゐる。次に、

在教理である。佛教の「法」を奉ず、儒教の禮を尙び、道教の行を修むを宗旨とする戒律嚴しきビュータンの宗教である。因果應報、除苦興樂、修身克苦を戒律とし、禁酒禁煙、觀世音菩薩と老子と孔子の三聖像を祀つてゐる。支那全土の教會數約三千。滿洲だけでも三百以上あり滿洲の信徒約三十萬。社交の際「我在理」といへば決して、酒、煙草、阿片を喫めない。この外に

回々教は滿洲各地に寺院をたてゝゐる。マホメットが教祖なること周知の如くであるが、往々革命運動、暴動の中心をなすので最も強き戒せられてゐる宗教團體である。(此秘密結社の項は昭和八年夏奉天東北大學で下書が絶へて連べたる)この外に

滿洲は一帶に、私の見た範圍では、佛教の一種喇嘛教が信奉されてゐるのをみた。喇嘛寺が到るところに立つてゐる。又禪寺もあるが荒廢衰微のすがたであつた。

以上かなりにながく滿洲の社會に於ける秘密結社と

宗教について述べたのであるが、滿洲國では、かゝる在來の民間組織を基礎に持つ「鄉村自治共同團體」の「自治」を害せざる如くに、「自治指導部」を設けて其を善導するとともに、最近では地方行政組織も改革し（昭和九年十二月）地方行政の擴充に一層の力を注いでゐる。其とともに中央集權の制を確立して、鄭國務總理大臣—總務廳—を責任の中心とする獨裁主義を政治上に執行してゐる。但し此度の地方制度の改革は、中央集權の制を稍々緩和し、可成地方へ其權限を委譲し諸機關に於ける上下的連絡のみならず水平的連絡を保ち得るよう改めてゐる。而して議會に代るべき制度として地方に於ては民間團體—商・工・農—と官廳との半公平私的會合を屢々催して政治上の重要諮詢機關たらしめてゐることは、かの伊太利の獨裁制度下に於ける協調組合 (Corporation, Korporation) の制を彙擧たらしむるものとして特に私的學的關心をそゝること大なるものがあつた。

康徳元年（昭和九年）三月一日を以て執政制度を廢止せられ帝政を宣布せられたことは説くまでもないことだ。

此處で滿洲國政治組織のあらすぢをのべると、皇帝の最高諮詢機關として參議府あり、宮内府、尙書府、侍從武官處亦皇帝に直隸す。國務院、立法院、監察院、法院（最高法院、最高檢察廳）警備司令官、鑾隊司令官は夫々皇帝に直屬す。國務總理大臣は皇帝を輔弼し

其責に任ず。但し康徳元年より兵政分離主義を執りつゝあり。國務院直隸機關として、總務廳、法制局、國都建設局、國道局など。更に九部、即ち(1)民政、(2)外交、(3)軍政、(4)財政、(5)實業、(6)交通、(7)司法、(8)文教、(9)蒙政の各部、國務總理大臣の統率下にあり、民政部に各省公署、(1)奉天、(2)安東、(3)錦州、(4)熱河(5)吉林、(6)賓江、(7)三江、(8)閩島、(9)黑河、(10)龍江—特別市—新京・ハルビン—公署、首都警察廳など屬す。民政部警務司は滿洲國警察機關の總元締なり。蒙政部には、興安北・西・東・南分省が屬してゐる。地方機關としては、興安省にあつては各分省の下に旗公署あり、其他の省にては縣公署（此等の諸制度、日滿關係に就てはすでに本學報に於て『滿洲國王道政治と皇道政治』に於て之を論じたり。但し其は執政下の舊制度を中心とせり。新制度即ち皇帝下に於ける諸制度については『帝政滿洲國政治組織と改革地方行政組織（學徒研究團報告書）にて詳論せり）之等の諸制度に於て日系官吏の合作・指導—內面的指導—あることに就ては、すでに幾度か之を論じたところである。之等の側面に日滿議定書に基づく日本軍の存在、又すゝんでは在滿日本行政機構の實在てふことも閑却せられてはならない。

其は兎も角、村全體が匪賊化するような鄉村に新王道主義（新王道主義の意味について前掲『滿洲國王道政治と皇道政治參照』の撫育を滲透せしめ、建國の情理を理解せしめ、更に各々其青雲の志をとげしめて倦まざらしめず、其分に應じて登龍の道をひらき、新興帝國の國家工作に參與せしめる趣旨を徹底せしめ、もつて人心をして新興帝國に歸趨せしめること、かゝる仕事は正に「自治指導部」に課せられたる重大なる任務であらう。他方彼等の物質的利害を充足せしめる手段を講ずること、即ち缺乏物質の供給、交通機關の整備—道路、運河の開設—は、迅速に行はれねばならぬことでもある。兎も角も、今や滿洲國の社會的基礎構造となるべき地方制度の擴充、新王道政治政策の滲透こそ最も緊要のことなのである。かゝる基礎工作上に滿洲國王道政治の巨大なる殿堂が聳え立つてゆくのである。

「滿洲國はもう潰れない！」これが、昨年滿洲國を觀た結論的感懐であつた。一昨年は街路、辻々に銃劍をもつた日本兵の姿を觀、一脈の不安が滿洲國內に流れてゐた。そして「滿洲國を潰してはならない」これが一昨年觀た結論的感懐であつた。一年経つて、昨年は日本兵も街路より姿を消して都鄙鐵道沿線には平和の氣が流れて輝やかしき新興帝國の將來が期待されたことであつた。これは後になつて、新京にはいつて、觀る一年間の「新京の變化」飛躍的發展には驚嘆すべきものがあつた。大阪や京都にゐるのと少しも變らない！少し物價が二、三割—三、四割高いだけの相違である。これも何れ將來平均されてくるだらう。

和平の空氣の中に一日一日と伸び上つてゆく大滿洲國。其滿洲國の天空の空氣の又何と静かにも廣瀾たることよ！ 四顧一翫をみざる緑の大草原上を快走する飛行機のプロペラの音！ 隼の如く影一つ地上に投げつけて！

私は其飛行機上から滿洲の大平原を見下してゐるのだ。

ボンベイの廢墟を思はしめる黄灰色の土壁をめぐらせる安達の都府。緑の縞模様。高度は四百五十米―時に五百米。緑の草原の上に不整形がころがつてゐる。放牧牛馬だ。突如視界をさえ切る白い煙幕白雲！……一時間四十分……はつと思つた瞬間、飛行機の車輪はチチハルの飛行場の草をなぎたふして走つてゐた。

上の句を忘れたが『チチハルの砂すでに蟲啼く』てふ與謝野鐵幹の歌なつかしくチチハルを訪れたのだが、道連れも無かつた一人旅では轉た蕭條。詩興もなく市街の見物も忽忽として閉ぢこもる旅舎の窓邊には蟋蟀が一匹！

向ひの家に義太夫をうなる聲！ チチハルにしてきくラヂオの聲！

八月四日はチチハル駐屯軍司令部を訪ひ諸種の調査事項を聴く。

八月五日

飛行機にてハルビンへ。

滿洲の飛行機はいつも満員である。一週間も前から申込んでおかないと席は得られない。

天氣晴朗。爆音！ フワリと浮び上る昇天の感觸！ ぐんぐん引き上げられる感じ、大氣を一段一段おさへながら。機首は南東へ。響く爆音！ 清澄の大氣をゆるがして。チチハル郊外。水溜り。沼、沼、沼。混牧地帯の上空。牛、牛、馬、馬。沼は灰白に混濁してゐる。沼の縁は白く隈どつてゐる。ソーダ灰だ！ 見はるかす蒙古の原は、はろばろとして涯しもしらず、雲のたゞずまるは水平線の彼方に大海原を想はした。まことに雲か山か異か越か、陸と天、鬚髯として青一髪を聳く。四顧涯しもしらざる此緑の大草原に、影一ついなづまの如く投げて飛行機は爆音を天空にとどろかしてゆく。

高度約四百五十米。下には沼、沼、沼、白いソーダ灰……。

ソーダ質強きが故に此あたり耕地を殆んどみない。稀にみる耕地の縞も、まばらにして織糸乏しきみすばらしい縞柄だ。

土人は此ソーダを食鹽代用として採取する由。此あたりソーダ質強くして、現在は耕地に不適である。しかし此地が永久に耕地に不適だとは誰か斷じ得るものぞ！

現在、北滿に―遼河流域に、呼爾河、コイル河、嫩

江の流域に―更に敦崗線の流域に―十五年無施肥耕地が、沃野茫茫として、地主さへなく、人の來り住み種播くを待つてゐる。だから人は、今は此ソーダ地を、考慮に入れる必要もないであらう。

だが、將來は必ず人は此地を考慮に入れる、日があるであらう。そして、此ソーダを原料とする化學工業を興す日もあらう。又、ソーダ質に化學肥料を加へ、又は物理的操作を行ふことによつて、ソーダ質なるが故に、反つて、より有効なる耕土とならむことを誰か否定し得るものぞ！ 恰かもかの「滿鐵の瘡」といはれし大孤山（鞍山）の鐵鑛が「酸素還元法」によつて―燒いて粉にしてだんごにするといふ操作によつて―優秀なる鐵鑛と化し、もつて「日本の生命糧」となりしが如くに！

昨夏以來の此の痛切なる所懐を、此ソーダ灰を俯瞰しつゝ、更に新たに感得するのであつた。

機上から俯瞰すればすぐ判ることだが、日本の土地は山の傾斜面、山腹から山のとつべんにまで段段をつくつて水田や畑地が拓いてある。家が密集して立てこんでゐる。畑地や家が山の頂まで上つてゐる。家、畑地、密林の山、此が日本の土地である。滿洲には山はそこらあたりには無い。だだつ廣い原野、ところどころに耕してある畑地、思ひ出したように部落の家があらはれる。満員電車とガラ空馬車の對照である。

さきにも一寸述べたように北滿、即ち遼河、流域、呼爾河、コイル河、嫩江の流域は、十五年無施肥地といはれる黒土の沃野である。此等の土地が日本移民に對して無償開放せられてゐるのである。チチハルより北安へ、北安よりハルビンに至る車窓に展開する此黒土の大草原には向日葵や、桔梗女郎花に似たる秋草がコバルトの空を背景に、黄に紫に紅に燎亂と咲きほつてゐるのを視る。昨年は郭圖線の沿線こそ邦人移民の好適地と思つたが、本年は此北滿の大寶庫をみて驚嘆したのである。

黒龍江省長の意向として、當時責任ある筋よりきいたところによると、今のべた北滿の土地、殊に遼河流域―大黒河の近くである―は邦人移民に無償にて差上げるとのこと。但し武裝なしで來てもらひたい。治安防衛は日・滿軍に引受ける。日・滿人に半々に呈上する。而して滿人を指導して頂きたいとのこと、などであつた。移民の方法としては、日滿雜居の方法を、鄰國務總理大臣は希望されてゐた。しかし、私思ふに其は全く「理想」であつて、實際は、風俗習慣、世態、人情の異なる従つて日・滿人別々に集團をつくつて、邦人なれば櫻や神社を持たんで日本の情緒を其周圍に醸成することによつて、第二の「ふるさと」が其處に生れるのである。其處に邦人の永住の根がおろされるのである。而して外部との協調、即ち滿人に對する指導が心からなる隣人愛によつてなされるのである。此點同行の橋本博士も全く同意見であつた。今や、着々々

人移民は成功を収めてゐる。佳木斯の移民も成功の域にはいつたとのこと。今後ますます移民はなされねばならぬし、又必ず成功するのである。大毎の松岡主筆の如きは「自分は、日本より滿洲が氣候がよいと思つてゐる。」といつも語つておられる。これは必ずしも誇張ではない。氣候が悪いなど、思ふのは晝夜兼行式旅行者だけが感ずることらしい。夏は日本よりしのぎやすいことはたしかだ。大陸の爽風がいつも吹流してゐる。汗はすぐ乾く。朝夕は眞夏でも涼しい。秋の感觸である。私は冬を滿洲では送らないが、零下何十度といふ寒さは、極寒の間だけ、其も朝晩のほんの暫しの瞬間だけだ。

「滿洲はほんとに住いとこらだ」と何の無理もなく、へるのである。

飛行機は爆音を轟かして、此廣漠たるソーダ草地の上空を飛翔して南東へ！  
爆音に蹴とばされて、黒い鳥の群が、下の方でうろたえ騒ぐ。

縞模様緑の緑の大平原。緑、緑、緑だ。  
幾許もなくひろがる松花江の水、水、水。

水の中からのぞいてゐる青い屋根、白い屋根、赤い屋根……太陽島……ハルビン市街上空。流れる家、家、草、草……

飛行場。一段一段とひきおろされる感觸。急に軽い動搖！ 車輪は草の急流を急廻轉だ。所要時間一時間

二十分。

はじめ此機上調査は大黒河へ、國境方面へ飛ぶ豫定であつたのだが急に豫定を変更したのであつた。

豫定の制限紙數をはるかに突破したので、遺憾乍ら日本の空は、最大急行にスピード・アップしなければならぬ。

春まだ浅き日、東京から大阪への空。  
羽田飛行場を午後一時離陸。

東京灣の碧瑠璃の玻璃板上に浮ぶ汽船、大汽船、小汽船……空よりみる海の美しさ！

東京市よ左様なら……

瞬間に私の腦裡をかすめる、議院風景の生々しき印象。

五十萬元事件で山口義一氏が床次遷相に肉迫した時のあの青白い緊張した顔！……悠揚せまらざる床次遷相の應酬の姿……「世界はどの國も擧國一致の非常時です……お互にもう泥合戦はいゝ、加減にいたませう……高橋藏相の禪味横溢せる飄逸なる椰諭に失笑する衆員諸公の顔、顔、顔……鈴木喜三郎、山本佛次郎、久原房之助、鳩山一郎、永井柳太郎、尾崎行雄、お歴々の諸氏の顔。演壇の左翼に大臣諸公の顔。町田商相、小山法相、松田文相、内田鐵相、演壇の右翼に岡田首相、後藤内相、大角海相、廣田外相、林陸相、兒玉拓相。大臣諸公の緊張した顔。……金井正夫氏の顔。全く顔顔、顔の印象だ。



議會政治はまだ／＼日本には生きて居る。伊太利や獨逸其の他の獨裁國家で議會を廢止してゐるのに比較すれば格段の相違だ。「政府の所爲又は要求に、同意を與へ、政府の行爲を監視する」一政府に不法不當の行爲なきよう、右責任の行爲を爲さしむ」てふ立憲議會政治はまだ／＼日本には亡びない。世界に於て、日本の政治制度は遜色はない。……

そういふ様な生々しい感想や印象が際間的に頭腦の一角をかすめる。

東京よ左様なら！小さくなつて行く屋根、屋根、屋根、屋根。日本の家屋は、滿洲のように土壁がなくて密集して居る。郊外。田、田、畑、田……。もう緑の山、山……。左手に相模灣。浮ぶ江之島……。富士が雲上に顔をのぞかせる！。急角度上昇、山、山、……。箱根にかゝる。蘆之湖の上。稍下降。三島の上。東方の肩に雲を纏ふた富士は俄然裸形の半面……。全部をあはして来る。……。沼津の上。愛鷹山を脚下にふんまへて巍然として立つ富士の姿！ 莊嚴なる名山の姿！ 雪は白銀に輝いてゐる。

おごそかに雲をしのぎて富士立てり  
影雲に投げて飛行機ゆくも

脚下に展がる沼津の海の色。緑青、コバルト。千本松原。左手に遠く駿河灣、伊豆の山々を俯瞰して。高度千五百。

富士の西方に雪の連山、日本アルプスの峰、峰、峰

……飽覽秀色。天然の絶景は日本の空である。興津、三保に近くして富士は全貌をあらはす。静岡市の上空。濱松。富士は背後にかすかに。……豊橋。機體の動揺がはげしい。バス位揺れる。一帯の日本の空は凸凹の氣流を感じる。……下降……。海。名古屋港外。名古屋飛行場……。着陸。再び飛行。右手にみゆる木曾川の下流。幾筋も分れて海にそぐ河口。木曾川氾濫の意味がはつきりする。薩摩四十七士の義烈を思ひ出す。遠く展開する濃尾の大平野。名古屋は大都市なのに物價がやすいのは、市の背後にかゝる大鹽庫を控えてゐるからなのだ。伊勢灣にはうす雲がかゝり初める。四日市。龜山。濃々たる雲霧がおしよせる。……急上昇だ。鈴鹿山脈にかゝつたのだ。上昇。又上昇。二千米……。二千五百米……。坂は照る照る鈴鹿は曇る、あひの土山雨が降る。今日も雨が降つてゐるらしい、密雲がこめてゐる。……雲、雲、雲の海原。二千七百米。三千二百五十米……。雲上を飛ぶ飛行機！ 空の美しさ！

何處かの畫展でみるやうな空の色、清新なブルジャン・ブルー、淡黄を少しまかせてばかす。コバルト。朝の空。清澄な空氣。……太陽は中心に輝いてゐるのだ。ふと雲上をみる。雲上に畫く圓い虹！ 其圓い虹は飛行機とともに走る。圓い虹の中に何か黒いものが背光を放つてゐる如來の尊像？……熟視すれば飛行機の影だ！

圓かなる虹を畫きてその中に

影雲にながて飛行機とべり

雲上を往く壯快さは三十一文字に盛るべき世界であるよりも豪壯なる詩の朗詠にて表現せまほしき境地である。

雲間に、雲の切目に下界が陰見する。

身は、はるか九重の雲上をゆき、はつかに下界より雲間を通して其片影を望見するのみ。其影は七彩の虹を畫きて儼かに雲上に落す。斯如きは正しく王者のすがたか！

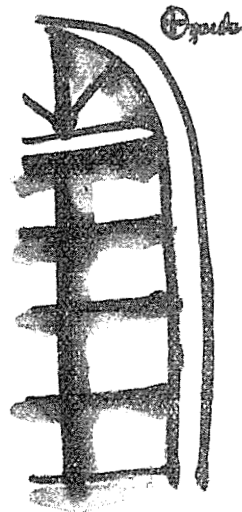
上昇又上昇……。三千二百七十米……。密雲の海、雲、雲、……。急下降！ 密雲の中をいなづまの如く抜ける！ 窓外に水平にはしる雲雨白銀に光る！ たちまち密雲の層を抜ける、……。見える地上……。生駒山の上だ！ 低空を滑る、煙突の間をぬける。……木津川飛行場。

正に、午後四時。三時間だ。四百二十五料。

學報局編輯氏の「何か軽いものを」との懇請で、何か書く、ことを約束してしまつた。

縮切間近になつて、學報の報告などで忙しくなり、断るにも断りきれず、筆をとつたのだが、つい豫約の紙數をはるかに超過して、後半は、文字通りスピード、アップして何の叙述にもならなくなつたことは遺憾であつた。

乞御諒察。



學内報

## 入學式舉行

大學各學部、第一豫科及び第二豫科入學式は四月十五日午前十時より千里山學舎威徳館に於て、専門部第一部及び第二部入學式は同日午後二時より天六學舎講堂に於て舉行された。国歌合唱の後仁保學長は勸語を奉讀し、新入學生々徒に對し、學術の研鑽、人格の練磨、國家思想の涵養について諄々として訓諭され、終つて學生々徒總代の宣誓があつて閉式した。

### 學部新入學生宣誓

關西大學學部に進むに當り覺悟遵守の念を新にし益研鑽修養に努め以て本學の期待に副はんことを誓ふ依て爰に姓名を自署す

### 大學豫科新入生徒宣誓

關西大學豫科に入るに當り謹て本學建學の趣旨を體し以て學生の本分を全ふせんことを誓ふ仍て爰に姓名を自署す

### 専門部新入生徒宣誓

關西大學専門部に入るに當り謹て本學教養の趣旨を

體し以て學生の本分を全ふせんことを誓ふ仍て爰に姓名を自署す

## 五十周年式典明年に延期

本學創立五十年式典は本年舉行の豫定であつたが、千里山豫科校舎建築中なるにより滿五十周年に相當する明年度に延期することになった。

## 追試験施行

大學豫科 自五月一日 至同四日  
 學部一、二年 自六月六日 至同十日  
 専門部 自四月廿四日 至同三十日

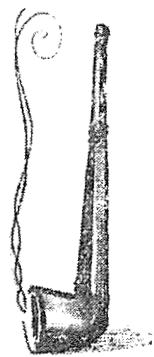
## 人事異動

教授	野村次夫
教授	安藤光
教授	河村信一
教授	加藤金次郎
會計課主任	桂忠雄
専門部 教務課主任	松崎義盛
學部豫科 教務課主任	中尾謙吉

本年度學生主事ヲ命ス  
 本年度生徒主事ヲ命ス  
 圖書課主任事務取扱兼務ヲ命ス

## 母校創立五十年を迎へて

本年は本學創立五十年年に相當しますので、先づ本學の出身の先輩各位に、所感、近況、回顧談等をもとめました。逐號本欄に掲載致します



### 第九回卒 吉村種藏

拜復 時下益々御隆盛之段慶賀し奉ります、扨而私は母校第九回の卒業生であります、即ち北區河内町の寺を借りて授業して居た頃で、毎夜「ランプ」の照明に依て講義を聞いたものであります、爾來幾多の難關を突破して今日の進展を見ました事は實に感慨無量にして眞に御同慶に堪へない次第であります、尙將來益々順調に内容を充實し其使命を全ふせんことを祈て止みませぬ。

### 第九回卒 野島藤次郎

私共の在學は天満のお寺の本堂の大ランプの下で講義を筆記して居りました、講師は掛下、大倉、磯邊、松村、大鐘、更谷、三濱、林、横山の諸氏で今生存せられ居るは横山(東京)林(大阪)尾古(京都)の三氏ならんか、其當時垂水先生(現關甲校長)が主事格にて講師の送り迎へは人力車を以てしたと記憶する、

本學書記二任ス

(庶務課)	松本實造
(學務課)	安井章吾
(教務課)	頼經彰一
(會計課)	山本正男

### 本年度入學者及在學者數

入學者	在學者	計
學部	四一六	五六一
第一大豫	八七	一二六
第二大豫	二四〇	一四〇
專門部一部	四五二	四三〇
同 二部	一〇七八	一四四〇
計	二二七三	二六九七
		四九七〇

庶務課兼圖書課主任

### 田川七郎氏逝去



去は痛惜に堪へない。

本學庶務課兼圖書課主任田川七郎氏は昨春來病氣療養中の處、容態遽に革り、四月二十六日午前十一時五十分永眠せられた。享年四十一

氏は明治四十四年以來勤續二十有餘年、本學の爲盡瘁せらるゝ處不撓。前途尙春秋に富む氏の逝去は痛惜に堪へない。

### 學内消息

岩崎、大山、三枝樹三教授  
社會學大會に出席——

日本社會學會第十一回大會は五月四、五、六の三日間京都帝大及び同志社大學に於て開かれ全國の社會學者を網羅して研究發表があつたが、本學よりは岩崎教授「國民社會の構造」大山教授「日滿兩國の國民社會の構造」三枝樹教授「菩薩道の社會學的考察」なる三教授の研究報告があつた。

### 住所移動

木村 健助氏(教授) 京都市右京區嵯峨天龍寺北造路町一八(電話三三三)

大橋 光雄氏(講師) 京都市左京區吉田神樂岡町八

松廣 末松氏(庶務課) 三島郡千里村千里山三六六

### 元講師矢野茂氏逝去

本學の前身關西法律學校創業の頃講師として育英の功多かりし矢野茂氏は去る三月二十三日八十三歳の高齡を以て永眠せられた。氏は大阪始審裁判所判事を經て高知地方裁判所長、長崎、廣島控訴院檢事長歴任後休職となり、東京雜司ヶ谷の自邸に悠々閑日月を送つてゐた。

三月三十日青山齊場に於ける葬儀には校友會東京支部より支部長山口直三郎氏參列敬弔の意を表した。

生徒は苦學生多く寒中足袋なくして燒芋を嚙りつゝ、通學した(現代議士も)其内に居りました、今昔の感に堪へず。

### 憲法學說の追懷

第八回卒 三浦岩松

學報局は今年が開校五十年に當るので私に所感追懷談か何かを送れとの申入れがあつた。私の入學したのは明治二十六年で卒業したのが同二十九年、實に四十年以上の星霜を経て居るので、萬事悉く消滅時効にかゝつて居るが、不思議にも憲法學說だけは幾分記憶に在して居るから記述して見様と思ふ。

昨年の議會で問題となつた憲法學說は、私共が在學當時口角泡を飛ばして論争した處で、議會の記録を讀で甚だ興味を感じたのであつた。明治二十七八年頃は判檢事辯護士試験の規則が改正せられぬ前で、試験科目も民法、刑法、商法、民訴、刑訴等で、憲法、行政法、國際公民法、等は無かつたので、當時の學校は開講せず、生徒は唯前記試験をパスする事をのみ目的として必要科目のみを勉強したものであつた。然るに明治二十七八年日清の戦争があり、捕獲審檢所と云ふのが出來、國際公法の實際の適用を見る様になり、臺灣が日本の領土に入るに及んで公法の適用に關する實際問題等が起つたので、我々學徒は此等の智識を得んとして學校當局に開講を要求した事もあつたが、併し級友中には登用試験科目中ないから開講は餘り必要でないと思ふ意見の人も可なりあつた様であつた。併し二十八年吾々が三年生となつた時、憲法だけは開講が初ま



## 校 友

### 大阪支部春季懇親會

校友會大阪支部の春季懇親會は五月五日の日曜日、快晴に恵まれて京洛の地に開催した。午前九時大阪驛に集合した一行は京都にて更に會員を加へて先づ西本願寺、三十三間堂、清水寺を參觀し、清水境内の若葉薫る掛茶屋にて晝食を攝つた。それより自動車二十餘臺を運ねて、銀閣寺、金閣寺を參觀、數奇を凝らした名園、建築、遺物に至町の昔を偲び、北野天神を経て午後五時より先斗町歌舞練場の鴨川踊に興じ、午後七時より東山連峰を見晴らす「魚濱」の大廣間にて開宴、喜多村支部長缺席せられたるにより内藤副支部

長に代つて挨拶を述べ、會計報告並に大學の近況を詳述し、満場拍手を以て之に酬ひ、珍味佳肴に京妓の三絃、親しみと喜びの溢るゝ中に盛宴裡に閉會したのは九時過ぎであつた。



大阪支部春季懇親會  
（上）銀閣寺内参觀

（下）前於ける本願寺勸修門行

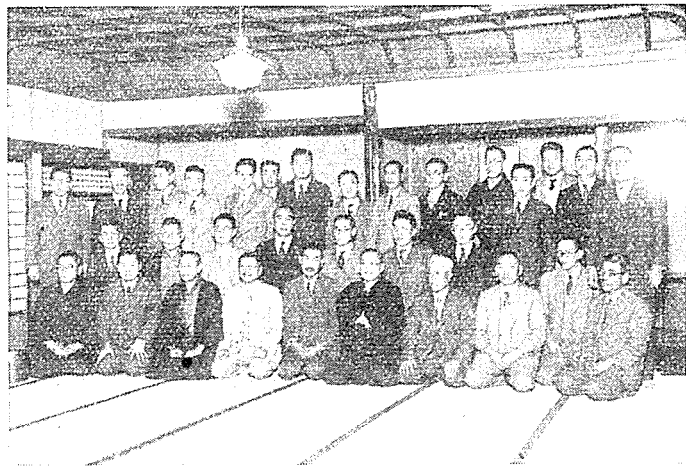
つた。當時大阪では本校の講師は大多数が判檢事と辯護士であつたから私法學者が多く、公法學者は少なかつた様に思はれる。夫れで憲法の講義が松村敬夫先生に依つて始められた。先生は東大英法科の出身で當時にあつては實に新進氣英の學士であつた。其學説は入東穂積博士の學説を基礎とせらるゝので所謂主體説で多分穂積博士講義筆記を或る程度迄其儘引用せらるゝものではないかと吾々は思ふて居た。

當時既に所謂機關説ある事も講義中であつて、是が批評もあり討論もあつたが、併し吾々は主體論と機關説に對し大に疑問を抱き論争したが、結局吾々は大きな疑問として一の國家を國內法と國際法に於て異りたる觀念の下に置くのは了解が出来ぬとして論議を終つた。是は矢張今日の問題となる處で吾々が當時大いに論争したのは學校の薄暗い教室の空氣を振蕩さしたるに過ぎなかつたが、昭和の今日では中々の大問題となつた。夫れから今一つは萬能主義と制限主義の論争であつた。云ふ迄もなく穂積博士一派の萬能論者は、日本の憲法は何等元首の行動に制限を加へるものではないと云ふ簡單明瞭の議論、然るに一方は制限論、是は當時早稻田大學にあつて論陣を張つて居た有賀長雄博士で其議論は同博士の著書「大臣責任論」中に可なり明瞭に論ぜられてあつた様に記憶する。最近陸軍から頒布された憲法問題のパンフレットにも此萬能主義が閉陳されて居る様に思つた私は當時の記憶により今少し詳しく記述して見度と思ふが學説の内容に入れば甚だ長くなるから簡單に其外廓だけを記して學報局に對する責任の一端に酬ゆる事とする。

昭和十年四月二十六日

尚當日の出席者は左記百二十二名。

一海景宿、今田光匡、飯田正一、岩島支一、池田信之助、飯田清藏、島田繁太郎、花田菊太郎、橋本康藏、原田鹿太郎、西村勝太郎、西田精治、西本寛一、本田武藏、富田金三郎、鳥羽源四郎、戸波次郎、富田與男、榎木清蔵、富田伸次郎、徳矢清太郎、遠部逸太郎、大崎萬太郎、岡本義男、岡本榮吉、和田于一、神田榮吉、河村寅介、可野敬四郎、神尾敷氏藏、神宅智恵、河村信一、桂忠雄、勝野敏夫、吉村種藏、吉田官松、吉木留壹、吉田一枝、田所留三、垂水善太郎、竹腰吉治、高松林之助、玉木三郎、丹二良、竹西宗助、武内省三、田邊信太郎、谷口宗一、土橋四三、中村鄒次郎、中川庸太郎、永井景一、永田長雄、内藤正剛、中井三之助、中村長之助、中塚竹藏、中川太郎、中村公男、中務平吉、中谷敬造、中塚正信、中上正雄、村松岩吉、村尾静明、梅原貞治郎、植田完治、歌橋千秋、内田泰、野崎勇二郎、野口政次郎、野村次夫、黒田甘次郎、山崎敬義、矢島彪、矢口孝次郎、山口辰雄、安川安太郎、山根誠藏、八木孝三、山野炭、山田卯三郎、山本順應、松本芳太郎、松崎義盛、松本茂三郎、松本實造、松廣末松、松本標四郎、前田常好、正井敬次、深川重義、福田次彦、袋井壁太郎、藤本室雄、小泉幸治、後藤田徳太郎、近藤友房、澤美元次郎、佐藤繁、菊池金次郎、木戸卯之助、木村健助、岸本芳夫、木村順次郎、水谷揆一、道端常治郎、三浦三郎、三島律夫、宮崎秀夫、笹田正一、清水榮松、清水兵衛、正田麻治、下島光、島良司、新町徳之、神保敏男、森下龜太郎、森内植吉、森下政一、杉本信雄



朝鮮支部春季總會親會

### 朝鮮支部春季總會

四月十八日午後六時より京城府旭町京喜久に於て第六回春季總會を開催し役員の改選をなす。

當日の京城は櫻花と好天氣に恵まれて遠くは清津の赤木輝夫氏を初め出席者近年になき多數にて昔話に花を咲かした、六時過ぎより松本支部長座長となり開會昭和九年度事務並に會計の報告をなし承認を得て役

員の改選を行ひ別記の通り決定した。野田幹事より光州吉田顧問を初め南原三上吉隆氏成興石崎儀二氏よりの祝電並に各地校友の通信を披露すれば一同拍手して感謝す。

總會を終つて一同記念撮影して宴に入る、松本支部長の母校の隆盛と共に當支部の發展を祝して挨拶あり一同祝盃を擧げて學歌を合唱す、年齒の別なく和氣靈々として思ひくゝに座席を廻り盃を交して快談盡きる處を知らざりしも九時三十分母校の萬歳を祝して盛會裡に無事散會した。

當日出席者三十五名(卒業年度順)

松本 正寛	寺川 三藏	信田 芳	岡本 至徳
森井與一郎	崔 鎮	松田 清	山本 恒夫
日下部景勝	松村 作二	新居 隆市	高橋 伊平
大幸 明	野田 博	赤木 輝夫	別本 静哉
井内源次郎	江藤 榮七	河面 三二	中村 簡吉
小松 勝馬	杉山 志敏	大川 正雄	目淺 嘉見
伊藤 圓雄	伊東 祐一	海野美代市	樋口 保次
杉井 軍治	小西 頼人	吉岡 敏一	砂野 隆
木原 安彦	荒木 信隆	足立忠夫	

役員氏名及事務所

顧問	岡本 至徳	吉田平次郎	植野 勲
	寺川 三藏	末廣 清吉	
支部長	松本 正寛		
幹事	森井與一郎	崔 鎮	松田 清
	松村 作二	高橋 伊平	太宰 明
	野田 博	江藤 榮七	中村 簡吉
	玉木 豊吉	伊東 祐一	海野美代市
	小西頼人		
事務所	京城府和泉町	朝鮮精米株式会社内	

カシサイニバーシテイサイタイ  
K S U 春季總會

大阪通信局に在勤の關大校友會並に在學生を以て組織せる本會の春季總會は、去る四月九日午後六時から江戸橋西入る「とり菊」にて開催、集まる會員三十五名、諸般の報告役員改選の後、七時開宴、母校から安井章吾君、辯護士阿部甚吉君も特に來會せられ、いやが上にも總會気分は高潮せられた。何分規定の時間内は飲み食ひ無制限と來てゐるので、窓外の春雨をぼ降る江戸堀川の夜景も物かは、美妓の奏でる音律に大いに關大スピリットを發揚したが、流石の猛者運も生理的現象には敵すべくもあらず、全くの飽和點に達して九時過ぎ盛會裏に散會した。

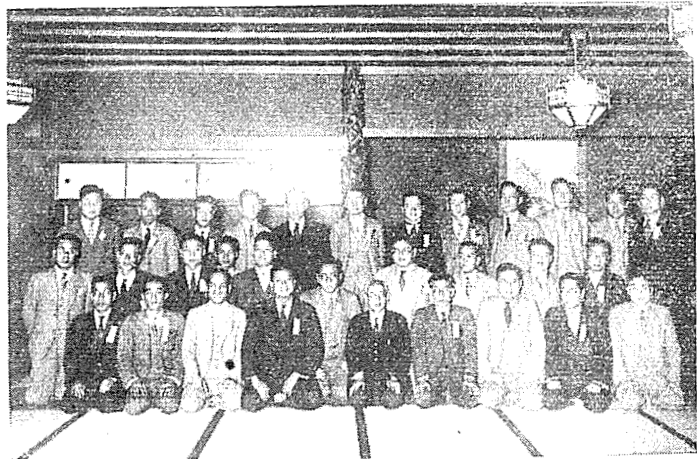
尙改選後の正副會長は左の通りである。

會長 沖 鶴 忠 (再)  
副會長 柿 原 拓 (元)

出席者、安井章吾君、阿部甚吉君、松本、後藤連、柿原、三木、水谷、藤田政、山根、藤田正、伊賀崎、瓜田、佐藤、濱野、八木、花田、大野、野村、坂下、塩野、荻野、後藤山、浅井、原田、服部、高芝、宗定、日下部、山崎、遠藤、中筋、芦原、瀧、福留、森、西崎、盛谷、和田寫真師 (補原)

昭三會第二回總會

昭和三年専門部卒業生を以て組織する昭三會にては陽春四月二十七日午後七時より阿部野橋富士屋に於て等三回總會を開催した。會するもの三十餘名、永野幹事長の開會の挨拶について母校より出席せられた木戸先生の挨拶あり、屋崎常任幹事の會計報告の後宴に移る。懐舊の情に一人の親を加へつゝ、美妓斡旋に酒盃を重ねると共に社會人として衣を脱ぎすて、往時の學生気分に戻つて意氣軒昂、全く歡興盡くる處なく和氣霽々裡閉會したのは十時半であつた。



昭三會第二回總會

出席者

來賓—木戸卯之助先生  
會員—(法科) 戸澤武、樫田義徳、多久和良三郎、丸木利喜造、小寺小市郎、安藤一郎、澤岡泰之助、喜田武夫、銀島萬作、塩屋基助  
(經濟) 伊東辰雄、伊秀夫、山口宣夫、安田武敷、松井廣瀬、福本真一、阿部寛、阪上正巳、阪口清司  
(商科) 池田昌一、原淑二、大塚豊、尾崎信夫、長村眞一、田中久雄、永野一忠、倉重政道、圓米龍夫、湯浅吾一、社尾千代治  
尙人會希望者は終身會費(基本金 金壹圓也を關大會計課内尾崎宛御送り下さい。(振替(大阪)二二、八七五)

みどり會 (專一出身千里山在學)

みどり會は専門部第一部を卒業して千里山學部に在學して居る者が互ひに連絡和合する目的を以つて組織された會で言はゞ同窓生視睦會であります。

目下専門部一部出身者は約九十名緑の千里山で學究にスポーツに奮闘して居ります。

會名は煙の天六に比して千里山は緑、何時とはなしに緑の千里が丘に因んでみどり會としました。

會合としては春秋二回總會をやつて居ります。本年は五月下旬に新入生歡迎總會を開く豫定です。専門部一部出身の千里山學部新人の方々を始め在學生諸兄の多數謝來會の程願ひ申し上げます。

動 靜

菊池宗三郎氏 (元生徒理事) 興安騎兵第六團本部勤務  
興安省南警備司令部附、住所滿洲國洮安線王爺廟  
佐藤 義道君 明二六法 岡山縣小田郡笠岡町大久保  
に移轉、全所にて辯護士事務所開設

福田 莊平君 (天三專法) 山陽縣玉島驛長を辭す、住所岡山縣淺口郡長尾町玉島驛前

清水 萬次君 (天三專法) 警視廳吾嬬警察署長、住所東京市向島區吾嬬町東三丁目三四官舎

植松忠次郎君 (天三專法) 中尾法律事務所を辭し、東區淡路町二丁目三四に辯護士事務所開設

佐津間秋夫君 (天三專經) 松本鑄造株式會社勤務  
山下喜代志君 (昭二大經) 株式會社大林組敦賀出張所

勤務、住所福井縣敦賀町曙區一一二

北本彌市郎君(昭二專法) 大阪帝國大學勤務、住所北

河内郡守口町守口一二八

堀 武藏君(昭三專法) 神戸市三木無盡會社勤務、

住所神戸市灘區八幡町四ノ五九

牧野 定雄君(昭三專經) 京都市合資會社商工社取締

役

高部 和夫君(昭三專商) 東京万年社勤務

戸川 一夫君(昭三專文) 堀川小學校より濟美第二小

學校に轉勤

大宅元三郎君(昭三專文) 去る四月二十七日令闈逝去

矢寺 三郎君(昭三專文) 大阪中央放送局勤務

増田勝左衛門君(昭四大法) 北鮮日報社勤務、住所朝鮮

清津府常盤町一〇

岸田 久馬君(昭四專法) 岸和田市會議員、山文石油

合名會社(大阪市西區土佐堀道一丁目) 住所岸和

田市宮本町四八〇

内海 健男君(昭四專法) 大阪市電氣局労働課係健係

住所大阪市住吉區田邊東之町七丁目二六

熊谷 正一君(昭四專法) 内外木材工業株式會社勤務

住所大正區千島町六全會社内

荒川虎一郎君(昭五專法) ラジオ公論社を辭し、同人

と共にラヂオ新報社を設立經營

木田幾右衛門君(昭五專法) 今治市愛媛縣今治財務出

張所勤務

田中 壽藏君(昭六專經) 日本人造纖維株式會社勤務

住所前橋市紅雲町一〇

櫻木 一雄君(昭七專法) 滿洲國々務院需用處勤務、

住所新京朝日通り三三三

岩國 眞三君(昭八大專) 京都放送局勤務、住所京都市

上京區大將軍鷹司町三〇

佐藤 與市君(昭八專二商) 勤務先大連市敷島町四九、五

品ビルディング内味の素鈴木商店大連事務所、住所

大連市初音町二二三瀝美方

太田 文治君(昭八專二商) 大連市若狹町八、明治生命

大連出張所内

中西 嘉人君(昭九大法) 高木商店を辭し堺市役所簿

生課勤務

半田久壽男君(昭一〇大專) 勤務先神戸市葦合區磯邊通

四丁目七神戸ビル内、島田商店神戸支店、住所神

戸市葦合區旗塚通五丁目四七

眞野 正夫君(昭一〇專二法) 東成郵便局退職、住所大

阪府南河内郡道明寺村大井四

池上 慶夫君(昭一〇專二法) 中國銀行高梁支店勤務、

住所岡山縣備中高梁町本町

小久保定之助氏(元 講師) 逝去

友澤 清雄君(昭二九法) 昭和四年八月二十七日逝去

大田 宗醇君(昭三〇法) 逝去

榎本八治郎君(昭四五專商) 昭和十年四月十四日逝去

小林 正喜君(昭三八專法) 天王寺區石ヶ辻町一一八

内田 政一君(昭三專經) 尼ヶ崎市東難波西二ノ坪六

高田 密藏君(昭二二專法) 中河内郡大戸村石切一六三

大島 秀雄君(昭二四專法) 西區新町四ノ五新町ビル内

野村宗次郎君(昭二專法) 豊能郡能野田村一七六九

畑 義博君(昭二專法) 東淀川區下新庄町五八四

小野 英敏君(昭三專法) 兵庫縣武庫郡精道村山芦屋

三條會下

松井 廣瀨君(昭三專經) 東淀川區國次町一〇九

樋口 保次君(昭四專經) 京城府旭町一丁目一〇〇、

前野靜方

舟渡與三松君(昭四專圓) 旭區毛馬町一九

熊野 義雄君(昭五專法) 豊能郡豊中町南櫻塚九〇二

岩本 良三君(昭五專法) 泉北郡高石町羽衣三四二

小林 榮一君(昭六大法) 東淀川相川中通二丁目

赤井 末政君(昭六大法) 中河内郡三野郷村上之島

中川松三郎君(昭六專經) 住吉區桑津町一三五

西海 信一君(昭六專商) 旭區友淵町一二三、鐘紡營

業部大阪用度係内

櫻井鶴二郎君(昭七大法) 南區上本町二丁目八

林 衛門君(昭八專二法) 東京市麴町區丸之内仲三號

館二號入事與信所内

野村 吉治君(昭八專二法) 西成區岸松通一丁目二三

平川 治雄君(昭九專二法) 西淀川區海考江中一ノ八〇

鈴木 良君(昭一〇專一法) 新京特別市北安路四〇一

岸田方

藤村 健一君(昭一〇專二商) 東京市大森區馬込町東四

岩本 正君(昭一〇專二商) 尼ヶ崎市建家町二〇八

江浦 潔君(昭一〇專二經) 西成區榎松通二丁目五

改名性

矢谷幾右衛門 (昭五專法) (舊)

木田幾右衛門 (昭五專法) (新)



# 學 生

## 皇陵崇敬會 (千里山)

### 第三次第十五回例會

去る四月七日敬傍方面に例會を催す。  
 午前九時三〇分大鐵阿部野橋發。大和池尻下車。南方の第二十八代宣化天皇身狹桃花阪上陵。次いで第四代懿德天皇敕傍山南織沙溪上陵。第三代安寧天皇敕傍山西南御陰井上陵。第一代神武天皇宣傍山東北陵。第二代綏靖天皇桃花鳥田丘上陵に參拜し、茲に本月の例會を終り、歸途大軌郡山驛にて下車郡山城趾の櫻花の下で一同記念撮影をなし尙當地在住の本會先輩寺島正信氏宅にて多大の御響應を受け午後七時寺島氏宅を辭し大軌上六にて解散。

當日出席者——河村先生、先輩田畑氏、大野、原、乾、奥、三上

### 參 陵 會 (専門部一部)

#### 第二次 第一回例會 (第二十七回)

新會長として小林教官を迎へた最初の例會を四月二十八日新緑の大和敬傍方面に舉行した。此の日期より少雨あり其中を大軌電車上六に集りし者十六名、午前九時三十分上六發同十時十分神武御陵前下車す。道儀にして第一代神武天皇

敬傍上東北陵に達す、參拜後河村信一先生より有益な御陵の位置に關する講話を拜聽、次で神武陵の北方約五丁の第二代綏靖天皇桃花鳥田丘上陵に參る。此頃より雨は止み少し暑さを感じ、次で吉田部落の北方にある第三代安寧天皇敕傍山西南御陰井上陵に參拜す、此處で二人の會員を加へ垣垣たる大和路を行く、道十數丁にして第四代懿德天皇敕傍山南織沙溪上陵に達す、次いで久米村落から西すること數丁にして第二十八代宣化天皇身狹桃花鳥坂上陵に參る。續いて古蹟として有名な身狹桃花鳥坂墓に午後十二時十五分に參る。終つて久米寺前の茶店で素食をなし一同久米寺に詣で、境内で記念寫眞を撮影し直ちに第二十八代孝元天皇劍池島上陵に參る。それから最後のコースを辿つて午後三時榎原神宮に達す、境内の白砂青松に敬傍山の翠緑が映え神々しさ限りなく一同門前で再び記念寫眞を撮り終つて和氣講々の内に榎原神宮前より大軌電車で歸阪する。時正に三時四十分であつた。

參加者、小林、久原田、河村(徳)の諸先生  
 廣畑、楠島、二見の先輩  
 會員、中岡、大西、岡崎、大野、梶木、小石、矢吹、山本、甘野、林、笠原、山内

岩田前會長、小林會長兩先生歡送迎會  
 本會の會長として二年有餘の間絶大な

る御盡力を賜りました岩田教官は圖らずも去る三月の陸軍大異動に伴ひ大佐に御昇進待命となり、新らしく本會々長として茲に小林教官をお迎へすることとなつた。そこで本會は岩田前會長の送別と小林會長の歡迎とを兼ねた宴を去る四月二十八日午後六時より心齋橋筋つるや食堂に於て開催。定刻中岡副會長會員一同を代表して挨拶あり、次いで岩田前會長は本會の將來について希望を述べられ、小林會長の就任の御挨拶の後、武田主事並に河村信一先生の御話があり、學歌を合唱し、小林會長の發聲にて關西大學參陵會の萬歳を三唱し、一同元氣に午後八時半解散す。

當日の出席者——岩田前會長、小林會長、武田主事、河村(徳)可野、發井、久原田諸先生  
 朝田、松田、多田、北田、二見、楠島、廣畑、宮井先輩諸兄、中岡、緒方、小石、戸澤、大西、梶木、青木、飯尾、山本、根本、林、山内、笠原、甘野諸君。

第六週皇居及大廟遙拜——四月十七日  
 (水) 參加者十三名、十九日(金) 參加者九名。

第七週皇居及大廟遙拜——四月二十二日(月) 參加者十一名、二十四日(水) 參加者十一名、二十六日(金) 參加者八名。

新入學生諸君の爲め右皇居及大廟遙拜の要領を傳へます。本會の目的の一部たる

る建國精神の鼓吹の爲め、毎週月・水・金の日には午後零時半屋上に集合して之を行ひます。一般學生諸君の御參加を大いに希望致して居ります。

### 基督教青年會 (専門部一部)

今や内外共に多端なるとき我等は何によつて進む可きや、我等は真理の光の中に歩まねばならぬ神の國と義とを求めて止まない宗教的熱情に燃ゆる若き學徒數名相集りて祈り茲に新學期より基督教青年會の設立をみたのである。今や内部の充實を期すると共に外部に働きかけんとする前途遠遠なる本會の爲に諸賢の絶大な御後援を乞ふ。

尙本會の諸事業は次の如し

- 一、宗教研究 (片山教授擔當)
- 二、講演會 (名士招聘)
- 三、英語聖書研究 (ミスリ、アン、ピケンス擔當)
- 四、時事英語研究 (中川助教擔當)
- 五、親睦會 (タイプアテイ・レロード コンサート等)

本年度顧問講師並びに役員左の如し

- 顧問 片山教授  
 同 中川助教  
 講師 ミスリ、アン、ピケンス  
 會長兼會計係 神田孝助 (商三) 副會長 西園雅夫 (商三)  
 記録係 竹田達郎 (商三) 庶務係 緒方榮二 (商三) 委員 平井文平 (商三) 同中谷順一 (商三)



## 辯論部 (専門部二部)

### 東海地方春季遊説

辯論部は拾年度本學友會最初の對外的事業たる春季遊説を東海地方に敢行し、未曾有の盛況裡に幾多の收穫を齎らして歸阪するを得た。隊員一同よく吾が部三十年の光輝ある歴史と傳統を繼承して正義と使命の命ずる處、堂々眞正プロレタリア學徒の立場に於て現代社會に介在する諸種の矛盾と邪惡に對して、痛烈なる批判と統利なる解剖のメスを振ふ事に依つて東海地方民衆に呼びかけた。

吾々の斯かる眞率にして敢悍なる正義と悲憤の熱叫は見事、吾々の叫ばんと欲する處を徹底的に強調し、聽衆に深刻なる感銘を與へ多大の支持と共鳴を喚起するを得た。

斯くして吾々は完全に東海の地に言論の自由を確立し且つ亦學生辯論の眞價と役割を如何なく發揮したのである。

四月五日、名古屋市八重小學校講堂に一聲は擧げられた。定刻七時辯論部々歌を合唱、中本君の開會の辭に依つて言論戦の火蓋は切られ各辯士の全靈熱火と化しての熱辯は完全に聽衆の心を捉え、終始感激の中に十時過ぎ閉會を宣した。

六日、一路第二目的の地たる一宮市商工會議所に急行した。

其夜定刻前商工會議所は熱心なる聽衆によつてうずまいた。吾々は辯論部歌を合唱し中本君を演壇に送り藤井、岡本、土藏、能勢、高、坂本、淺田、勇内、各辯士は昨夜におとらぬ奮闘振りだ。

熱と意氣！それは學生辯論のもつ特質だ吾等の熱火の如き叫びは聽衆を感激の中に包み、吾等の眞率にして雄々しき叫びは聽衆に力強き意識を與へて大盛況裡に終了した時に十時半。(プログラム略) 尙本遊説に際し種々御指導御厚情を給はりました名古屋新聞社、並びに關西大學校友會東海支部富田先輩並びに名古屋新聞社一宮支局長大澤由松氏に隊員一同に代つて感謝の意を表します。藤川記

## 弓術

### 岩井 巖

我が國は開闢以來武術が尊ばれてきた國である事は言ふまでも無いが、就中弓術は神代より行なはれ、弓・馬・楯・劍と稱して武器の第一位に置かれて居たものである。

當時は丸木弓といつて木を削り丸くして造つたもので、棹弓、槻弓、檀弓、桃弓、桑弓等の稱あるにより明知出来るのである、後世源平の頃に至り美術的觀念よりして木と竹を合はせて木竹製の弓を

用いたのである。

古來弓は戰鬪の器として第一とされ、武を用ふる家を弓矢の家といひ、又武人を稱して弓矢執といつたのは如何に弓術なるものが武人の間に重ぜられたかを知る事が出来るのである。兎に角、弓術の妙は他の武術の比にあらずして源賴政は近衛帝御不豫の時怪禽の屋上に鳴くのを射たるが如き、又八幡太郎が白川帝の毎夜妖竈に侵され給ふと聞きて箭を放たず只弓弦を鳴らせしのみにて其の妖を掃ひしが如き他に枚擧に遑がないのである即ち此の藝目の法を脩する時は人に命中せしめずして其の命を斷つといふ妙を演ずるのである。

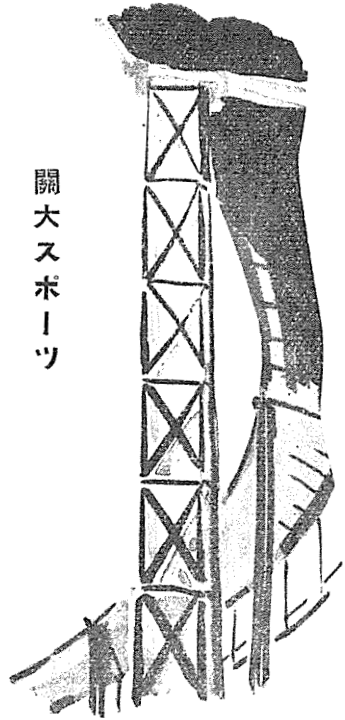
上古より徳川氏の末に至るまで、男子の身を立て家を興さんと欲する者は専ら武藝に精通せねばならなかつた、即ち此の時代において射藝は身を立つる第一捷徑であつたのである。故に此れを修得せる者は自然と職が與へられた。誰かが昔日に於て弓道は恰も唐の詩の如しと言つたが實によくあつて居る、即ち唐では詩に巧みなる者は進士及第の榮を得たのであり、丁度日本の高等文官試験の如きものであつた、然るに宋以後にありては詩を以つて人を採る事は廢止された、唯僅かに個人の品性を高尚にする具となつたのである、此の點我が國の弓術も大

いに之に類似して居る様に思はれる。

今や弓術は立身の道にあらず又處世に必要なものでもない、唯偶々好古者流の好資料となつてしまつたのは時勢の然らしむる所で已むを得ないのであるが、吾々倭民族に生れ尙武の風を習得する情が裏面に存しても悪くはないと思ふ、否目下の非常時打破には必要缺くべからずと斷言出来るのである。

射勢の整頓又進退止の閑雅悠々なる所、美的趣味は十分存すると言ひ得るのである、加之弓術は精神及肉體に及ぼす効力は非常に偉大であつて、歴史的聯想により尙武の氣性を發揮し合はせて日本精神を自得し、生理作用の見地よりすれば消化器を敏活ならしめ全身の生活力を旺盛ならしめて識らぬまに心身に好影響を與へるのである、特に神經系に關する病氣には其効力著しいものがある、昔時鳴弦の術を用ひて病氣を治療したのも大いに學理的理由が存すると思ふ、現時に於て弓は精神的治療法として兼つべからずと言ひ得られる。

ひかぬ弓はなたぬ矢にて射る時は  
中らずとも外れざりけり。  
彈僧がよく「線香の灰のおちるのを聞け」と坐禪に際し言ふが此れに似ている。此の點弓禪一如が證明出来ると思ふ。(100・三五)



關大スポーツ

◇野 球 部

對明治大學定期戰 第一回試合を四月

二日、東京明治神宮球場に於て舉行

審判、野本(球) 齋藤、錢村、堀場(壘)

關大(先) 03100001000114  
明大(後) 0020000000004

捕	北	正	34	打	數	34
一	中	西	10	安	打	10
二	右	橋	5	三	打	5
三	左	御	3	四	打	3
右	末	島	2	盜	死	4
三	來	井	1	失	策	2
投	北	井	1	捕	打	1
遊	今	井	1	二	打	1
遊	土	屋	0	三	打	0

二壘打 西村幸、布谷  
第二回試合は四月三日、午前神宮球場に

て明大先攻に開始

關大(先) 000000000001119  
明大(後) 000000000001118

第三回試合は同日第二回に引續き午後決

勝戦を行ひ凱歌を擧ぐ

審判、野本(球) 關口、錢村、片田(壘)

關大(先) 0110000021114  
明大(後) 0000000000111

中	西	村	32	打	數	33
一	捕	岡	7	安	打	5
左	黑	澤	1	三	打	0
右	橋	本	9	四	打	3
三	來	島	2	失	策	1
二	北	井	1	二	打	1
投	欠	野	0	三	打	0

三壘打 阪田、二壘打 岡本  
對立教大學戰 四月十四日、甲子園球

場に西下の立教軍を迎へて、熱戦補回十一を行つたが勝負決せず5-5にて引分けとなる

審判、町田(球) 濱井、杉村(壘)

關大(先) 001112000000005  
立教(後) 010000000000005

捕	北	浦	39	打	數	41
一	中	西	7	安	打	7
二	右	橋	6	三	打	0
三	左	御	7	四	打	3
右	來	島	2	失	策	4
三	來	井	1	二	打	1
投	北	井	1	三	打	1
遊	磯	野	0	四	打	0

(三壘打) 御園生、志摩(二壘打) 北浦、高野

關西六大學リーグ 對京都帝大第一回

戰を四月二十日、甲子園球場にて舉行す

關大先攻にて6-0の勝

審判、水念(球) 村上、石川(壘)  
バッテリー(關大) 御園生、北浦(京大) 中島、兵戸

關大(先) 00000002101106  
京大(後) 00000000000000

對京都帝大第二回戰

四月二十一日、甲子園球場にて舉行、

京大先攻にて20A-3の再勝

審判、乾(球) 磯野、淺原(壘)  
バッテリー

(關大) 西村幸、御園生、岡本  
(京大) 中島、黒田、高原、兵戸

京大(先) 010010100000113  
關大(後) 10061010228A1120

對八幡製鐵

第一回戰、四月二十八日(福岡)

關西大馬3A-2八幡製鐵

第二回戰、四月三十日(八幡)

關西大學5-2八幡製鐵

◇拳 闘 部

對法政大學戰 四月二十三日、大阪朝

日會館にて舉行、七・五一一・五にて本

學の壓倒的勝利となる

法政大學 關西大學  
フライ級 三矢 判定 濱口○  
鶴岡 " " 平岡○  
江口KO二回 安藤○

バンナム級 ○荒木 判定 村田  
笹川 " " 倉橋○  
フェザー級 辻川 " " 高森○

ライト級 成 引分 飯野  
ウェルター級 金 判定 白井○

◇庭 球 部

大毎庭球選手権大會

シングル二回戰、四月三十日

廣瀬 (附大)	3-1-6	6-1-4	高橋 (附學大)
倉光 (附大)	6-1-3	7-1-5	光村 (附商大)
清洲 (附學大)	6-1-2	6-1-2	堀内 (附大)
藤井 (附大)	6-1-1	6-1-1	吉野 (附商大)

**シングル三回戦**

不破 (附商大)	6-1-1	6-1-1	廣瀬 (附大)
藤井 (附大)	6-1-0	6-1-1	井上 (附大)
倉光 (附大)	6-1-2	6-1-3	菊池 (附學大)

**ダブルス二回戦、五月一日**

菊池 (附學大)	6-1-4	8-1-6	藤井 (附大)
末次 (附學大)	6-1-2	6-1-2	堀内 (附大)
新野田 (附商大)	6-1-2	6-1-2	大澤 (附大)
廣瀬 (附大)	6-1-4	6-1-2	石原 (附學大)
隈本 (附大)	6-1-4	6-1-4	橋山 (附學大)

**ダブルス三回戦**

木下 (附學大)	6-1-0	6-1-1	廣瀬 (附大)
尾崎 (附學大)	6-1-0	6-1-1	隈本 (附大)

**シングル四回戦、五月二日**

藤井 (附大)	6-1-3	6-1-3	清洲 (附學大)
倉光 (附大)	6-1-2	6-1-2	新谷 (附商大)

**陸上競技部**

**近畿挑戦陸上競技** 四月二十九日、大阪市立運動場にて舉行、一等記録左の通り。

(百米) 10秒9	谷口 時生 (附大)
(四百米) 51秒3	藤枝 昭英 (附大)
(八百米) 2分10秒8	小路 秀夫 (附大)

**弓道部 (千里山)**

(走高跳) 1米80	近藤 満一 (附大)
(走巾跳) 7米26	大島 鎌吉 (附大O.B.)
(槍投) 64米89	長尾 三郎 (附大)
(五千米) 15分56秒	木下 時夫 (附大)

四月二十一日關西學生弓道聯盟加入、専門部と合してリーグ戦出場豫定の處、初加盟の事として第二部に編入されたりよつて一部躍進をオブジエクトとし、ペストを盡す覚悟、新人よ來れ！共に力強く弦を引こうではないか、新入部希望者は岩井 (商三) 澤田 (法三) まで申込まれ、道場は五年上旬竣工豫定

部長 藤澤章次郎 教授  
師範 小澤 謙先生 (武徳會範士)

**馬術部 (千里山)**

去月二十一日午前九時より春光麗かなる城東練兵場に於て大阪義勇乘馬團主催の元に近畿乘馬大會が舉行された、参加人員百五十名餘りにして本學より山田喜啓、鹽谷進の兩名を團體對抗高障礙飛越競技に派遣す、兩名抜群の成績にて優秀なる寺内師團長盃を獲得す

尙塩谷進高障礙連騎飛越競技に於て三十五

名中一点の減点も無く個人優勝をす同じく去月二十八日、名古屋東練習場に於て日本學生乘馬協會東海支部主催第一回記念全國學生乘馬大會舉行さる、關西學生乘馬聯盟選手として本學より中村紋一郎、熊田野郎、龜谷要の三名選抜され出場し心なくも聯盟對抗試合に第二位となる。

この日春雨しきりと降る中に、大會は漸次進められたが、我々ナイトに取りてこの日は絶好の試練場だつた。

**専門部二部**

今を去ること十二星霜の昔に創立せられ光輝有る歴史と傳統を誇る我馬術部は此處に希望溢るゝ昭和十年度を迎へた。新主將の下に部員拾餘名は、強固なる團結、熱烈燃ゆる如き意氣を以て、嚴寒

二月霜を踏み、陽春四月、花咲き鳥は唄へども、日曜祭日は素より普通の日として朝は早くより練習に練習を続け、晝は又々職務に勤み、夜は夜として學びの道にいそしんでゐるのである。それは決して何等の誇張でもなく、單なる文の裝飾でもない。正に血と汗と涙の努力であり、唯々關專馬術部、否、全關專二部學徒の名譽の爲への努力なのだ！

誰か我が關專馬術部に對して、フルヂョア、スポーツなる誤れる觀念を持ち得ようか。

歴史は輝く、功績は語る。滿帆希望をはらんだ我等が船は、今や錨を揚げてしづゝと彼岸の黎明に向つて進んで行く尙三月以後の主たる行事左の如し

- 三月 月 試験にも不拘練習を開始す。
- 三月廿一日 (春季皇靈祭) 卒業生送別記念遠乗を行ふ。参加者十三名、池田方面。
- 四月廿一日 今里乘馬大會、第二班参加 (四名) 三名入賞す。
- 四月廿八日 關西百騎會合同春季遠乗會、吹田方面参加者八名

- 本年度役員
- 首將 關崎 光夫 (商三)
  - 副將 後藤 光一 (法一)
  - 會計兼 石橋 一幸 (商二)
  - 庶務兼 下野津高治郎 (商二)
  - 委員 榮屋 宣男 (商二)
  - 連絡員 外部員 拾名



〔第二大學豫科〕

國 語

① 左ノ文ヲ解釋セヨ

手かくわざはいにしへ物のしるしに出できはじま  
りたるなればよきあしきあげつらふべくもあらぬ  
すぢなるものからいしへ人の書けるあとを見れ  
ば心さへ清らにおぼゆるはいかなる故にかと思ふ  
にそのいしへ人のすなほなる真心のおのづから  
ふでにあらはるるによりてなりけりわが縣居のら  
しはいにしへの學びの道をしも導き給ふを真心に  
て手かくわざをむねとせられつるにはあらねど書  
きたまへるあとのおのづからいしへ人のさまに  
かよひてわがともがらの人の跡をならひてそのか  
たちをうつしうるたぐひにしもあらぬは真心のい  
にしへ人に等しかればなるべし

② 左ノ文ニツイテ次ノ三問ニ答ヘヨ

- (イ) 片假名ノ個所ハ漢字ニ書キ收ムルコト
- (ロ) 傍線ヲ施シタル個所ハ解釋スルコト
- (ハ) 誤アラバ正スコト

シャウトクタイセイ一世のサイシキを抱いてゼンリ  
ヨクをブツケウのユウリユウにツクしたまいてより漢土のブンブツケツカの勢をもつてホンチユウ  
し來りタイセイここに移つてタイクワのカイシン  
となりぬかの國のセイドにナラひて新にクワンシ  
ヤウを設けクワンキを定むるなどこれまでチチタ  
リレブンクワはキフソクの新ボを逐げてまきに  
ヒヤククワレウランのセイキヤウあり爾來留學生  
はいよいよそのデンシフするところをもつて歸來  
盛にジツチにホドコシ相ついで立ちたまへるテン  
ヂテンムの兩帝は共にセイヂに熱心したまへば國  
家のキカウ大にシンチヤウレブンウンまたいやが  
上にハツテンしたり

漢 文

左の文章に送假名を施し全文を解釋せよ。

- ① 諸賢亮事。劉亮生。爲丞相。亮生猶爲。名。亮國  
以。後事。謂曰。君六十。當貴不。必能安國。終  
定。大事。若謂十臣。論。之。如其不。君臣  
百。亮當。曰。臣。當。之。力。劉。亮。之。節。繼。之。以。死。

左の章句に返點と解釋とを施せ。

- ② 發於義而味。人笑其體也。  
善巧成。爲。是。添。足。  
風月。文。詞。寄。情。亦。可。謂。高。趣。耳。

英 文 和 譯

- ① No one ever yet did any great deed of heroism or self-sacrifice, who was in the habit of turning his back on difficulty or duty, or of thinking first of his own comfort or pleasure.
- ② An Englishman is slow in making friend, but,

at the same time, it rarely happens that he does not prove faithful to them when once made.

- ③ After every great war there is much suffering and distress in the countries that have been engaged in the conflict. More especially was this the case after the Great War of 1914—1918, on account of the extent of the operations.

和 文 英 譯

- ① この方は英國人で富士が見たいとおつしやるのですが此天氣で生憎見えず、残念です。
- ② 御手紙昨夜拜見仕候。時間の都合宜敷候間御指定の時刻に貴宅まで參上可仕候。

〔専門部第一部〕

英 文 和 譯 (法律學科、經濟學科、商業學科)

- ① Milk is one of the cheapest foods as well as the most perfect food; it can take the place of many foods that cost a great deal more.
- ② If the water ran through a little hole, it would soon make a larger one, and the whole country would be flooded.
- ③ He has such a large family to look after that he has not much time to concern himself about what is going on in other people's houses.

作 文

我母校を憶ふ

〔専門部第二部〕

英 文 和 譯 (法律科、經濟科、商業科)

- ① The New Japan will be richer and stronger and in many things wiser; but it will neither be so happy nor so kindly as the old.
- ② Do not be anxious to know too much, but be patient, and try to know and understand as much as you can of this world of wonders.
- ③ They went into the woods. The mother sat down in the shade of a tree and began to read in a new book which she had bought the day before. The boy played on the grass near by.

英 文 和 譯 (國語漢文科)

- ① One day a very pretty girl came to the scholar's house, and begged to be taken into his service. She said that circumstances obliged her to seek employment, but that she had received a literary education, and therefore wished to enter, if possible, into the house of a scholar.

(第七頁につゞく)

獨文和譯 (經濟學科、商業學科)

- ① Sage mir, mit wem du umgehst; so sage ich dir, wer du bist; weitz ich, womit du dich beschäftigst; so weitz ich, was aus dir werden kann.
- ② Der nicht zur überzeugung kommt, datz nur der arbeitende mensch ein ganzer mensch ist, und datz es ohne arbeit keine wahre Heiterkeit gibt, dem könnte kein Gott das Reich der glückseligkeit erschlieten.
- ③ Gerechtigkeit heitz; gleiches Recht für alle, keine Bevorzugung mächtiger oder Reicher, keine zurücksetzung armer oder politischer Gegner. Richter und Verwaltungsbeamte müssen Vertrauenspersonen der ganzen Bevölkerung sein, nicht vertreter einzelner parteien. Ohne Ordnung und ohne Unabhängigkeit der Richter gibt es keine Gerechtigkeit.
- ④ Dae Ordnung des wirtschaftslebens nutz den Grundsätzen der Gerechtigkeit mit dem ziele der Gewährleistung eines menschen würdigen Daseins für alle entsprechen. In diesen Grenzen ist die wirtschaftliche Freiheit des Einzelnen zu siehern.
- ⑤ Alle Einnahmen und Ausgaben des Reichs mützen für zedes Rechnungsjahr veranschlagt und in den Haushaltsplan eingestellt werden. Der Haushaltsplan wird vor Beginn des Rechnungsjahrs durch ein Gesetz festgestellt.

Die Ausgaben werden in der Regel für ein jahr bewilligt; sie können in besonderen Fällen auch für eine längere Dauer bewilligt werden.

佛文和譯 (經濟學科、商業學科)

- ① Comme dit Montesquieu: "Je n'ai pas tiré mes principes de mes préjugés, mais de la nature des choses." J' ajoute avec lui que "Je n'écris point pour censurer ce qui est établi dans quelque pays que ce soit." Je voudrais seulement aider à dissiper dans les esprits quelques brouillards fiévreux.
- ② Un nationalisme est, en effet, une idée qui sert de centre et de ferment à la vie nationale. Pas une idée-formule, bien entendu! Mais une conception vague chez les uns, précise chez les autres, qui peu à peu, entre dans la sensibilité, imprègne l'action et se tourne en instinct, parfois en passion. Si cette Passion prend assez de consistance et d'énergie intérieure pour attirer à elle, par un progrès qui grandira avec le nombre de ses "croyants", les forces actives sentimentales d'un pays, elle remplace le patriotisme.

論 文

- (經) 國民經濟に對する政治の影響について
- (商) 商業に志す吾人の理想

[第一大學豫科]

國 語

- ① 左ノ文章ヲ解釋セヨ  
すべてふみくさをつくり出でむにはおのがひとり思ひ得たるふしありて人のたすけともなりぬべきすぢあらばなしてもありなむはかばかしき心もあらでただ人のいへることをのみ捨ひあつめつおのが思ひ得たらむさまにいひなむはいとしな おくれたるわざなりなまなまなるうひまなびの人はことのゆゑよしをもよく知らねばいちはやきわざなりとも思ひぬべしきれどこころある人の見ばおのづからあなづりおとしむべき業にこそあなれ
- ② 左ノ文章中片假名ノ部分ニ漢字ヲ宛テマタ誤アラバコレヲ正セ  
(イ) そもそもアジダウのコンボンセイジンたるやコクシヨこのかた深くコクミンのキヨウテイにハウザウして尖はざるものセンランタタのフケジダイに際してようやくそのカタチを現はししがそのナイヨウとケイシキとをケンビしてリヘイふたつながらカウテウに達せるはこのエドジダイを措ひて何の時か求めむ  
(ロ) キシンのコウゲフは水戸學にハイタイシガクシヤのロンギよくテンカのタイセイをサイウしたりとは史家ジャウタウのセツなれ

漢 文

左の文章に送假名を附し全文を解釋せよ

- ① 陶侃常語、人曰、大禹聖人、乃惜寸陰、至於衆人、惜分陰、豈可逸遊業、時、死無、聞、於後、是自棄也。
- ② 精正政書論、尊長曰、庸愚不知兵道、諸劣不、思、名義、豈不、及、顧朝、茲亦不、如、顧朝、也。而恭帝誤、殺、御之衛、使、之、怒、軍志、君子惜、之。

英 和 和 譯

- ① It is important to learn early to rely upon yourself; for little has been done in the world by those who are always looking out for some one to help them.
- ② Dearly as he loved liberty, there was one thing he loved even more, — he loved his native land.
- ③ After rain comes sunshine; after winter, spring; after sorrow, joy; therefore you must never be discouraged, but must always hope for happiness.

和 文 英 譯

- ① 四月は氣候概してよろしく、我國に於ける遊覽の時節です。
- ② 僕が昨日、山中君を見送らうと思つて、神戸の棧橋へ駆けつけた時には、船はまさに出帆せんとするところであつた。

wenn dies der einzige Unterschied wäre. Wir haben keinen Grund anzunehmen, dass die Kräfte, die uns schufen, erschöpft seien, und so könnte vielleicht eine Zivilisation heraufkommen, in der die Männer und Frauen genügend aufgeklärt wären, um einzusehen, dass es ihre erste Pflicht sei, uns ..... die gegenwärtige Zivilisation ..... anzurufen.

## 佛文和譯 (法文學部)

Un jeune homme ardent, à l'âme généreuse et noble, qui jette ses premiers regards sur le monde social, y aperçoit tant d'inégalités, de privilèges injustifiés, de malheurs immérités, de risques de toute sorte, résultats de chances ou d'infortunes, que sa conscience en est aisément bouleversée. Il faut savoir, pourtant, comment s'expliquent ces déconcertants contrastes, comment se légitiment ces avantages, qui semblent dus au hasard, comment se compensent ces infériorités choquantes et quel ordre profond se dissimule sous tant d'incohérences apparentes. Il faut chercher, surtout, si les résultats de fait, que l'on constate, s'imposent absolument, et dans quelle mesure. Il faut se demander, s'il n'y a pas lieu de les corriger, voire de les modifier ou renverser, en vue d'introduire un peu plus d'ordre vras et d'harmonie foncière dans la Société des hommes.

## 論 文

- (法) 國體と政體
- (政) 現代世界に於ける政治的動向を論ず
- (哲) 日本精神とは何ぞ
- (英) 外國文學研究の意義を論ず

## 〔經 商 學 部〕

## 外 國 語 (英、獨、佛語ノ中一ヲ選擇)

## 英 文 和 譯 (經濟學科)

Speculation in a currency is peculiarly dangerous. Speculation in a commodity, if mistaken, brings its own corrective; those who have gone too far in anticipating a rise find themselves loaded up with redundant stocks, actual or prospective, which they can not sell; those who have gone too far in anticipating a fall find themselves obliged to deliver supplies which they cannot procure except at a loss. A bear account strengthens the market; a bull account weakens it. Speculation in a currency on the contrary tends to bring about its own fulfilment. Those who expect depreciation hasten to become debtors in the depreciating medium; if the banks consent to lend, credit is created, and the increase in

the supply of bank credit brings about the depreciation expected. In the same way, the prospect of appreciation makes borrowing look unprofitable, the banks cannot induce people to borrow, the volume of bank credit shrinks, and the appreciation is brought about.

## 下文ノ要領ヲ記セ (商業學科)

## COLLAPSE OF THE GOLD STANDARD

Now the most momentous event which has led to a parting of the ways in regard to policy has undoubtedly been the abandonment of the Gold Standard by the British Commonwealth of Nations (except South Africa) by September, 1931, and the quick succession in which this action was followed by similar action of a great many other countries (including South Africa at the end of 1932). The course of the depression may thus be divided into two distinct phases -- the first covering the period when almost all countries maintained the Gold Standard, and the second when the majority of them had abandoned it. The latter period is of special interest because it offers an opportunity of ascertaining how the two policies have affected the course of things in the respective countries or groups of countries.

The general level of prices in a country which maintains a free Gold Standard is, as everyone knows, inextricably tied to the price level of all the other countries on that standard. Any disturbance in the economic equilibrium due to a major change in the purchasing power of gold is thus more or less faithfully reflected in each individual Gold Standard country. While the outward and visible signs of the disturbance vary in each country according to its particular economic structure, the fundamental nature of the disturbance is the same, and one would therefore expect to find the characteristic features of the depression reproduced in all countries on the Gold Standard.

The abandonment of the Gold Standard by a country changes the situation radically. A country which has abandoned the Gold Standard by that fact acquires from the monetary and, through it, from the economic point of view, a separate and independent existence. The price level in that country will be determined by its own individual monetary policy, and, unless that policy conforms closely to that pursued by the Gold Standard countries, the developments will be different from those in the latter countries. This is also true, of course, of any group of countries which, after abandoning the Gold Standard, has pursued a more or less common monetary policy.

(1) 昭和十年度入學選拔試驗問題

〔法文學部〕

外國語 (英、獨、佛語中一ヲ選擇)

英文和譯 (法律學科、政治學科)

- ① The object of laws is primarily to supply rules of conduct, rules as to what ought to be done and what ought to be abstained from. Laws are, of course, not the only rules of conduct which govern men's actions. People conform also to fashions, to manners and customs, to conventional standards, to precepts of morality.
- ② It is usual for writers on jurisprudence to begin with a definition of the topic they propose to discuss, namely, law. But such definitions given at the very outset have this inconvenience, that they are imposed on the readers, who as yet have only vague ideas on the subject and therefore are bound to accept more or less passively what is told them in a dogmatic manner. Moreover, a definition of law is by no means easy to give: many have been suggested from time to time, and it is only after careful consideration that one is justified in selecting from the number. It seems more advisable to proceed in a different manner — to clear the way for a definition by narrowing gradually the scope of the inquiry, first determining the class to which the subject belongs, and then marking the particulars of the species under discussion.

英文和譯 (哲學科)

- ① Language is manifestly a social product, and the fact that man is the only speaking animal is correlated with the fact that he is preeminently the social animal. In the same way, the power of abstract thought and of syllogistic reasoning may be shown to depend largely upon language and other traits developed through association. Even Self-consciousness itself, the consciousness of the unity and continuity of our mental life, which many make the distinctive mark of human society, is probably an outcome of association. It certainly depends for its development in the child largely upon language and the general give-and-take of the social life.
- ② Systems of education have not been created for the training and development of individuals as such, but rather to fit individuals for membership in society, that is, to control the process by which they acquire habits, so that they shall advantageously coordinate their activities with those of their group.
- ③ Love of wife and child, the strongest of all

sentiments with the Occidental, is judged by the Oriental to be a selfish affection. He professes to be ruled by a higher sentiment, duty: duty, first to his Emperor; next, to his parents. For the Oriental the law of life is duty. Affection must, in every time and place, be subordinated to duty. Any public exhibition of personal affection is equivalent to a public confession of moral weakness.

英文和譯 (英文學科)

- ① A tragedy represents a series of incidents or events, the ending of which is, as a rule, unhappy and disastrous to the hero. It is usually the story of a person in an important station in life, and the ruin that overtakes him arises not from accident or chance or blind destiny, but from some flaw in his character. This is the conception of a Shakespearian tragedy. Hamlet is a Prince, Othello a successful Venetian general; their fall from their position of rank and trust affects a large number of their countrymen, and the untimely end that overtakes them is the result of, and proceeds from, their respective characters in the case of Hamlet, from his irresolution, in that of Othello, from his jealous nature.
- ② A survey of language, however superficial, makes it evident that when we speak of style, we have to take into account those qualities of national character which are embodied in national speech. If two men could be born of precisely the same physical, mental, and moral nature, at precisely the same moment of history, and under precisely the same social conditions; and if these men learned. (to be continued)

獨文和譯 (法文學部)

Die meisten Engländer meinen, dass Zivilisation schlechtweg die englische Zivilisation sei, und dass sie sich stetig verbreitere, ständig wachse und immer erleuchteter werde, bis sie geradeswegs zum Himmel eingehe. Aber das stimmt nicht. Zivilisationen gleichen den Menschen darin, dass sie sterblich sind. Sie erstehen, wachsen, und wenn sie einen Höhepunkt erreicht haben, verfallen und vergehen sie. Anders aber als die Menschen, sterben sie nicht ganz und gar; sie siechen dahin, ersterben ..... und beginnen von neuem. Ich bin keineswegs überzeugt, dass das nächste Zivilisationsgewächs ein englisches, oder westliches oder doch westeuropäisches sein wird. Es kann auch negerhaftes oder chinesisches Gepräge tragen; vielleicht nicht im engsten Sinne des Wortes, aber die Träger der nächsten Zivilisation können sehr wohl Menschen anderer Hautfarbe als der unsrigen sein, und wir hätten Grund zu ungewöhnlicher Dankbarkeit,

川村貫治著	明解珠算要訣	3版	昭	八	柏谷眞洋著	名詞冠詞代名詞の研究	3版	大	一	三
	<b>産業</b>				小谷惠一郎著	基準和文獨譯法		昭	六	六
	<b>商業</b>				大津、道部著	獨文和譯研究		昭	八	八
	<b>學</b>				佐久間政一著	和文獨譯新研究		昭	四	四
小林行昌著	倉庫論	13版	昭	六	同 著	英語獨譯法研究	3版	昭	三	三
原口亮平著	高等利息算	14版	昭	七	龜井藤太郎著	獨逸文法講義	10版	昭	六	六
吉田眞三著	工業簿記提要	9版	昭	九	Gonda, Y.,	Neuestes Deutsch-Japanisches Wörterbuch. 1932				
上野道輔著	簿記原理	13版	昭	八	Tobari, S.,	Grosses Deutsch-Japanisch Wörterbuch. 1933				
伊藤、久武共著	商業算術提要		昭	六	Klatt, E.,	Deutsch-English (Langenscheidts Taschenwörterbuch II.)				
前馬治一著	倉庫原論		昭	七	Takeuch, M.,	Das Leben im Spiegel des Briefes. 1929				
増地庸治郎著	商業通論		昭	五		<b>フランス語</b>				
上坂酉三著	貿易經營論		昭	八	Sabersky, H.,	Français-Anglais, 5.ed. (Fonolexika Langenscheidt)				
高瀬莊太郎著	グッドウイルの研究		昭	五		<b>ギリシヤ語</b>				
緒方忠著	買組織論	上卷	昭	七	Feyerabend, K.,	Greek-English 2.ed. (Fonolexika Langenscheidt)				
同 著	同	下卷	昭	九		<b>文 學</b>				
河合眞成著	取引所講話	16版	昭	九	高橋禎二著	文學原論	6版	昭	三	三
河部繁一著	企業簿記學		昭	九		<b>日本文學</b>				
長谷川安兵衛著	原價會計學		昭	四	山田武司著	兩月物語詳解		昭	五	五
服部嘉香著	現代商業文精義	4版	昭	八	土屋文明著	萬葉集年表		昭	七	七
金子弘著	廣告學		昭	九	窪田空穂著	新古今和歌集評譯	再版	昭	八	八
菅野和太郎著	日本商業史	再版	昭	七	島津久基著	源氏物語講話	4版	昭	七	七
三邊金藏著	近世簿記通論		昭	九	藤村作著	上方文學と江戸文學	10版	昭	八	八
吉田眞三著	商業簿記提要		昭	六	松岡靜雄著	萬葉集論究 第一、二輯		昭	九	九
向井、鈴木共著	商工經營要論		昭	七	窪田空穂著	作樂新古今和歌集		昭	八	八
内池廉吉著	商業學の常識		昭	九	清水泰著	堤中納言物語評譯		昭	九	九
山崎覺次郎著	銀行論	13版	昭	九	金澤、折口共著	國文學論究		昭	九	九
Bray, H. F.,	Commercial Composition and Correspondence. 1934		昭	九	金子元臣著	古今和歌集通解		昭	九	九
Toras, S.,	Business Correspondence Practice 1932.		昭	九		<b>支那文學</b>				
前田貞之助著	英語實用商業通信	再版	昭	九	吉波吉彦著	古文眞實後集詳解	再版	昭	六	六
	<b>交 通 學</b>				笠松彬雄著	唐詩選詳解	11版	昭	九	九
江藤誠之著	鐵道經營論	2版	昭	七	島田鈞一著	文章軌範新釋		昭	九	九
淺井、市川共譯	ヨーク、アントワープ規則		昭	九	田井嘉藤次著	支那時文實鑑	大	一	五	五
増井幸雄著	交通經濟總論		昭	九	寺内淳二郎著	漢詩文作法概説		昭	九	九
	<b>語 學</b>				鹽谷温著	唐詩三百首新釋	4版	昭	六	六
	<b>日 本 語</b>				柿村重松著	漢詩三百首新釋		昭	六	六
保科孝一著	新體國語學史		昭	九	簡野道明著	漢詩三百首新釋	17版	昭	八	八
三矢重松著	文法論と國語學		昭	七		<b>英 米 文 學</b>				
前田晁著	類句書翰文辭典		昭	八	Sawamura, T. tr.	Shakespeare's Merchant of Venice. 1933				
芳賀、杉谷共著	作文講話及文範	5版	昭	七	中川芳太郎著	英文學風物誌	5版	昭	九	九
服部嘉香著	現代作文新講	再版	昭	八	繁野政璃譯	ミル失樂園研究		昭	七	七
	<b>支 那 語</b>				澤村寅二郎譯	妻は知る		大	一	五
語言研究會著	漢字起原の研究		昭	九	岡倉、武井共譯	如意の郷		大	一	五
	<b>英 語</b>				奈倉、澤村共譯	イノックアーデン	2版	昭	五	五
Fowler, H. W.,	The Concise Oxford Dictionary of Current English. 1934				齋藤勇著	思潮中心の英文學史		昭	四	四
Saito, H.,	Studies in Radical English Verbs 1933				藤井秋夫著	英國の現代劇		大	一	五
Webster's	Practical Dictionary, Self-Pronouncing. 1931				澤村寅二郎譯	ベニスの商人		昭	八	八
Saito, H.,	Monograph on Prepositions 1932									
Inoue's	English letter Writer. 1934									
	<b>獨 逸 語</b>									
大津康著	複式和文獨譯法		昭	五						



# 圖書館新着圖書一覽 (天六學舍圖書館)

## 購入圖書

### 精神學科

深作安文著	思想と人格	5版	昭	六	八	八
同	國民道德要義	17版	昭	八	八	八
清原貞雄著	日本精神概説		昭	八	八	九
御巫清安著	祝詞宣命新釋		昭	八	八	九
深作安文著	思想と國家	3版	昭	九	九	九
瀧熊之助著	支那經學史概説		昭	九	九	九
吉田靜致著	道德の原理	7版	昭	九	九	九
亙理章三郎著	教育勸語釋義全書		昭	九	九	九
同	詔勅の聖訓と道德教育		昭	九	九	九
宇野哲人著	論語新釋	5版	昭	九	九	九
巖谷、宇野、諸橋著	孝經、大學、中庸新釋	4版	昭	九	九	九
小柳司氣太著	老子新釋	再版	昭	九	九	九
島田鈞一著	孟子全解		昭	九	九	九
同	論語全解		昭	九	九	九
吉波彦作著	韓非子詳解	4版	昭	八	八	八
宇野哲人著	四書講義大學	30版	昭	八	八	八
笠松彬雄著	左傳詳解		昭	八	八	八
内野台領著	孟子新釋	上、下	昭	八	八	八
飯島忠夫著	左傳釋義		昭	八	八	八
武内義雄著	孟子要略		昭	八	八	八

### 歴史科 學

辻村太郎著	日本地形誌	13版	昭	七	九	九
香川幹一著	概観世界地誌	上巻 6版	昭	七	九	九
同	同	下巻 5版	昭	八	八	九
山本熊太郎著	概観日本地誌	上巻 5版	昭	八	九	九
同	同	下巻 3版	昭	七	五	五
齋橋太郎著	西洋近世史講話		昭	七	五	五
高橋與惣著	支那受驗用東洋通史	16版	昭	七	五	五
田中義成著	南北朝時代史	5版	昭	七	六	七
石田義貞著	大平記新釋	11版	昭	七	六	七
塚本哲三著	増鏡解釋		昭	七	六	七
島田鈞一著	十八史略新釋	41版	昭	七	六	七

### 社 會 科 學

#### 政 治 學

正木亮著	監獄法概論	3版	昭	八	八	八
山田孝雄著	國體の本義		昭	八	八	八

#### 法 律 學

奈良正路著	刑法の基礎觀念		昭	九	九	九
石田文次郎著	民法研究	第一巻 3版	昭	九	七	七
同	財産法に於ける動的理論	3版	昭	七	七	七
同	投資抵當權の研究		昭	七	七	七
小原直著	金錢債務臨時調停法義解	再版	昭	七	七	七
新井正三郎著	新書式大全集	7版	昭	七	九	九
中島寛二著	實例競賣法綜攬		昭	九	八	八
末弘巖太郎著	民法雜考	3版	昭	八	七	七
信夫淳平著	上海戰と國際法		昭	七	七	七
立作太郎著	國際聯盟規約論		昭	七	八	八
松原一雄著	國際問題と國際法問題		昭	八	八	八
美濃部達吉著	公法判例大系	上巻	昭	八	八	八

同	著	同	下巻	昭	八	八
池田寅二郎著	債權總論		上巻	昭	九	九
同	債權各論		上巻	昭	九	九
酒卷芳男著	皇室制度講話		第二部	昭	九	九
野津務著	商法總則		中巻一	昭	九	九
勝木正晃著	債權總論			昭	九	九
近藤、拙木共著	債權總論			昭	九	九
	債權總論			昭	九	九
	日本民法			昭	九	九

### 經 濟 學

向井鹿松著	産業組合經營論		昭	九	九	九
波多野鼎著	景氣論		昭	九	六	六
松崎壽著	財界不況と金融政策		昭	九	一	三
藤本幸太郎著	經濟統計學	上巻 3版	昭	九	九	九
高島佐一郎著	管理通貨論		昭	九	四	四
佐藤弘著	政治經濟地理學	5版	昭	九	四	四
松崎壽著	金解禁問題研究		昭	九	三	三
小林北一郎著	火災保險		昭	九	三	三
増地庸治著	經營要論	6版	昭	九	三	三
森莊三郎著	日本家屋保險國營論		昭	九	三	三
位田祥男著	消費組合運動		昭	九	三	三
竹内謙二著	重商政策發達史		昭	九	三	三
高島佐一郎著	新貨幣金融論		昭	九	三	三
小島昌太郎著	金融機構論		昭	九	三	三
同	譯 ゾムバルト三つの經濟學		昭	九	三	三
Kenkyusha's English-Japanese Dictionary of Business and Economic						

### 財 政 學

阿部勇著	日本財政論	再版	昭	八	七	六
谷謙二著	我國最近の地租問題		昭	八	七	六
藤神正雄著	最近地方稅問題		昭	八	七	六
青木得三著	地方財政の理論		昭	八	七	六

### 統 計 學

北村友圭著	統計數學	再版	昭	八	七	三
森田優三著	統計概論		昭	八	七	三
道家齊一郎著	統計學		昭	八	七	三

### 社 會 學

高田保馬著	マルクス經濟學論評		昭	九	九	九
-------	-----------	--	---	---	---	---

### 教 育 學

乙竹岩造著	新教育史	4版	昭	六	九	九
同	新學校管理法	6版	昭	九	九	九
同	現代教育學汎論	4版	昭	九	九	九
吉田熊次著	社會教育原論		昭	九	九	九
高橋俊乘著	日本教育史		昭	八	八	八
亙理章三郎著	道德教育の理論と實際		昭	八	八	八
篠原助市著	理論的教育學	17版	昭	八	七	七
大瀬甚太郎著	教育の心理學	10版	昭	八	七	七
楢崎淺太郎著	日本教育の心理學		昭	八	七	七

### 自 然 科 學

#### 地 質 學

辻村太郎著	地形學	27版	昭	七	七	七
-------	-----	-----	---	---	---	---

#### 數 學

村林專之助著	實用珠算講義		昭	九	九	九
--------	--------	--	---	---	---	---

本學學報は廣く校友各位に送呈致すは本意でありますが何分豫算の關係もあり、巨費を要しますので維持費制度により頒布致して居ります。維持費は年額壹圓でありますから精々御申込願ひ度、又維持費切れの方は發送封皮に維持費切の印を押して御通知致しますから御拂込下さい。

關西大學學報局

學報申込書

一金圓也 但學報維持費 〇ケ年分(自昭和〇年〇月〇日至昭和〇年〇月〇日)

No. 右金額相添へ申込候也

昭和〇年〇月〇日

氏名

關西大學學報局御中

明治大正昭和 年 學部 科卒業

一、勤務先  
一、現住所

拂込方法 振替貯金、郵便爲替

(不用の文字を抹消して下さい)

編輯餘録

▽本號には大山教授並に西村助教より寄稿を得ました。赤羽助教の「シユパンとナチス經濟學」も本號に掲載の豫定で組版いたしました。御諒恕を乞ふ係で次號に廻しました。御諒恕を乞ふ

▽本誌表紙は前號より新進畫家藤本與市氏に囑して圖案化しました所好評を受けます。七月號までつづけ九月號から取替へる豫定であります。

▽本學創立五十周年記念として校友會東京支部より、樞密院顧問官伯爵瀧浦奎吾閣下並に前首相子爵齋藤實閣下の揮毫になる二大扁額を寄贈された。本誌締切後であつたから詳細は次號學内報に掲載いたします。

▽關大スポーツも若草の芽生へと共に活躍のシーズンに入つた、野球部が東都遠征の上、今春優勝候補の明大との一戦は全く同部の實力を裏書きしたものの拳闘部も對法大戦に輝かしい記録を残したこれも嬉しい。

▽校友欄並に學生欄、スポーツ欄は共に校友學生諸士の動靜を如實に反映するものであります。機を移さずドウ御投稿下さい。

▽明治三十八年關西法律學校出身の小林

正喜氏は子息が本年千里山豫科に入學されたるにより大阪に移住、左の和歌を寄せられた。

關西大學に入學せし人々に  
足ひきの山のゆくては遠くとも  
正しき道をふみなたかへそ

郷里熊本を出て大阪に移りて

やれはてしわらちをときしひまもなく  
また大阪にたひたちにつけり

御依頼

校友名簿中住所欄※印の方は現住所不明にて本籍地記載に付現狀御承知の方はお手数ながら御一報相煩はし度

大正十一年六月十五日前刊  
昭和十年五月十日印刷  
昭和十年五月十五日發行

不許複製

編輯人 神屋敷民藏  
發行所 關西大學學報局  
大阪市東淀川區長柄中道

天六學舎 關西大學  
電話 堀川一〇三九  
五七六〇  
七六〇〇

千里山學舎 關西大學  
大阪市外千里山  
電話 吹田一三三

ピクニツク シーズン來れり  
輕快なる服裝に適する新荷着

關西大學指定

難波洋服店

天六學舎前  
電話 藤川三四九番

出張所 千里山大學通り

# 關西大學 研究論集

第一號 (昭和九年十月發行)  
第二號 (昭和十年二月發行)

定價各壹圓

發賣所 甲文堂書店

大阪市東淀川區長柄中道

振替六二五二〇番

## 關西大學學會發行

(日五十月六年十和昭)號三第

日本憲法特質論	教授 吉田一枝
私法法規の時間的適用 範圍に關する一考察	教授 西村信雄
Citizens' 賣買に於ける 賣主の義務	教授 賀屋俊雄
西歐封建社會の構造	教授 矢口孝次郎
企業經營能率の測定	助教授 西村勝太郎
ハックスレイ文學論に於 ける純粹性と不純粹性	教授 堀正人
楠公精神の展開	教授 新町徳之

### 第一號

王道の意義を検討して皇道の法理的考察に及ぶ	仁保
社會學及社會學論の體系形態	大崎
權力の構造	森下
都市計畫	大谷
特別市制論	中谷
貨幣的景氣變動論	武田
連鎖店組織に就て	加藤
ロシア東方政策の地政學的吟味	中山
カントの歴史哲學	片山
ハーデイと婦人問題	内多
ワケルト・ホキットマンの詩	田邊
特に「Sonnet」(Marsyas)に就て	清直

### 第二號

倉庫寄託契約論	野村
フランスマ法に於ける内縁	木村
貨幣の主觀的價值並に其の決定に關する考察	正井
我國に於ける陸運事業の統制問題に就て	河村
國民主義の基礎問題	古川
カール・デイルの社會法的經濟學	赤羽
平均値論	河村
佛敎に於ける社會的實踐	三枝